

The Kansai University Bulletin

Osaka, June 15th, 1926 - No. 40

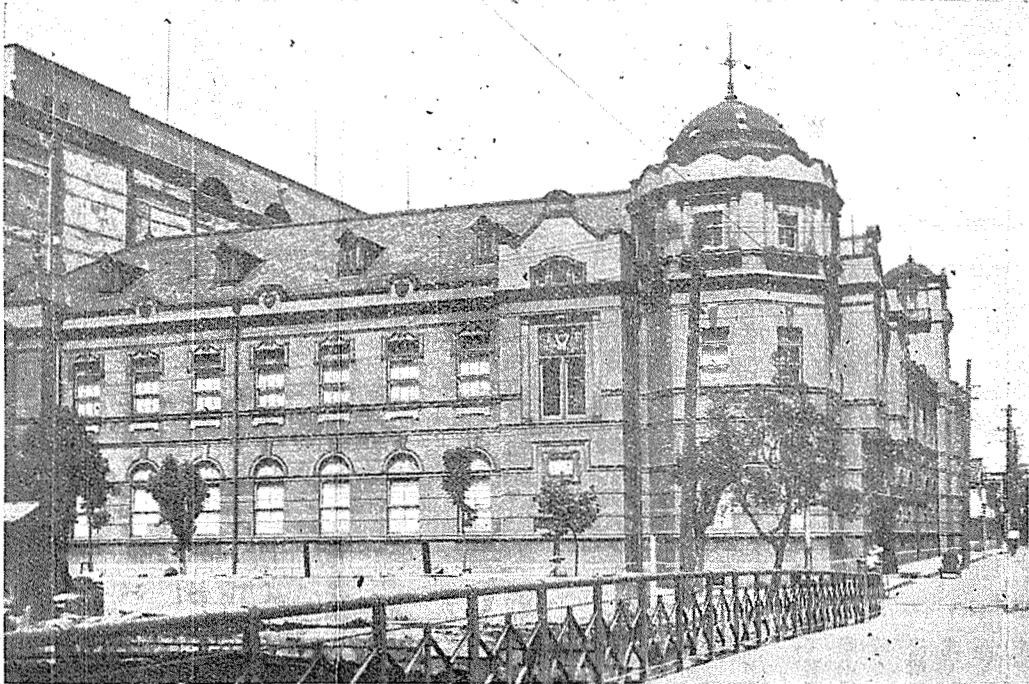
報學山里子

行發日五十月六

號 十 四 第

年 五 十 正 大

Building Gifted, as it stands, by the Sumitomo to the University



(照參事記)物建るたれさ贈寄りゝ社會資合友住

阪 大

堀 佐 土 話 電
番 〇 七 五 五 ・ 九 四 〇 一

局 報 學 學 大 西 關

座 口 金 貯 替 振
番 五 七 八 二 一 阪 大

目次

- 挿繪——住友合資會社から本學に寄贈されたる建物—フランシス・ペーコン—故エッチウアース教授とその筆蹟 井上準之助氏—井上準之助氏歡迎會—後藤新平氏の講演 深山重砲兵隊營庭に於ける第二商業學校生徒一同—下井信三氏—北川昇氏渡米送別會記念攝影—本學短艇部員一同
- 我對外爲替の現状と金輪解禁問題
元大藏大臣 井上準之助
- エッチウアース教授の略傳及び學說
ジョン・メーナード・ケインズ
- 學内報——住友合資會社の建物寄贈—井上準之助氏の來講—後藤新平氏の來講—大學令に依る本學創立記念日—本學専門部商業學科卒業者に實業學校教員無試験檢定認許—學部並大學豫科本學年度學級委員任命—千里山學舍に於ける地圖學講義—附屬第二商業學校彙報—關西甲種商業學校彙報
- 校友の面影——下井信三氏
校友彙報
學生彙報
千里山歌壇
千里山俳壇
雜錄

祭年百三のンコイベ・スシンラフ

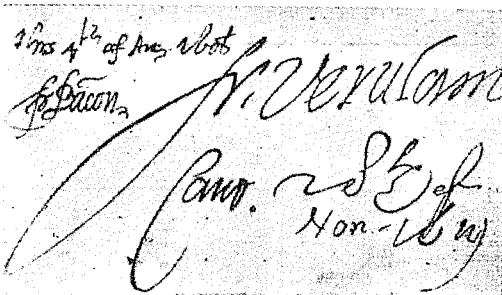


像肖のンコイベ・スシンラフ
(By Paul van Somer)

ラフの時當歳拾
ンコイベ・スシン



像肖のンコイベ・スシンラフ
(by Gilbert Jackson)



蹟筆のンコイベ・スシンラフ

去る四月九日は近世學術の濫觴期に於ける英國の大思想家として將又同國の大政治家、大法官として有名な彼のフランシス・ペーコンの死後第三百年祭に當る。ペーコンは後に同國の國璽司長となつた人を父として一五六一年一月二十二日ロンドンに生れた。彼は一五七三年にケムブリッジのトリニティ・コレッジに入學し一五七五年同校を出、翌年某貴族がフランスへ使するに従つてパリに渡り、居ること三年、父の計に會つてロンドンに歸つてからも更に勉學を續け一五八二年には辯護士の免許狀を得た。彼の後半生は或ひは宮庭の重臣として或ひは新興學問の開拓者として一世に重きをなしてゐた。ペーコンの學問上の貢獻は宗教的壓迫の下に呻吟して居つた舊學問を根柢より革めんとして、自然科學の新理想と新研究法とを提唱したる點にありと云はれてゐる。勿論ペーコン自身は新しき自然の法則を發見せしこともなく又新しき經驗哲學を打建てたのでもないが、所謂歸納的研究法を明かにして自然科學に新精神を吹き入れた意味に於いては彼を近世學術の祖と云つて致して不可ないであらう。著書の主なるものは次の通りである。

Essays: Advancement of Learning (De Dignitate et Augmentis Scientiarum): Novum Organum.

(千里山學舎に於ける講演摘録)

我對外爲替の現状と金輸解禁問題

元大藏大臣 井上準之助

關西大學の講演を松本學長からお話があつた時、私は非常に喜んでお引受けしたのであります。諸君のやうな若い方に對してお話をするほゞ私に三つて愉快なことはないのであります。私は人からよく年の割合に若いと言はれますが、それは一つのいいことであらうと思ひます。それから、實は京都大學で長い講演を引受けたものでありますから、その問題で私の頭は一杯になつてを、

實は他の問題を研究する餘地がありません、従つて今日は京都大學でいたしました講演のなかを引抜きまして申すことにいたしますから、その點は何卒御容赦願ひたい。私の申しますことはあまり切實に必要を感じられないかも知れませんが、今日日本では爲替相場が毎日の如く上がつたり、下がつたりする、そのために日本の貿易は非常な不安定な状態にあります。生糸に例をさるゝ、爲替相場が上がれば日本の生糸の値段が下がる。綿の如きも、爲替相場が上がれば價格が下がる。こいふ事情でありまして、日本の國民の多數は爲替相場が今後どうなるかこいふことに就て日常氣遣つてゐるのであります。それでありまして、その實狀を私は今日ここに述べまして、將來どうなるだらうこいふ私の見



井上準之助氏

込みを立てて、それに對してどうすればいいかこいふ自分の卑見を述べてみたいと思ひます。

日本は御承知の如く常に外國に物を賣るよりも、餘計買ふのであります。餘計買へばそれに對する支拂の金に困るのであります。明治初年日本は外國との貿易關係が出来て以來今日まで常に困つてゐるのであります。それが

ヨーロッパの大戦争が始まりましたから、幸ひなこころには輸出が非常に殖えて来たのであります。大正四年から始まりまして、大正七年までに日本が外國から取り得た金が合計いたしまして、大正九年までの分を加へますと三拾六億といふ大きな金を取つたのであります。大戦争の始まりました、大正三年には日本は既にこの上輸入を増加する金がないので

ありまして、今その時の状態を言へば、丁度今の總理大臣の若槻君が大藏大臣をしてを、私が正金銀行の頭取をしてをたつたのであります。共々に大いに國家の將來を憂へて、これはこの次第で行けば或はある品物の輸入を禁止するより他はない。このままで行けば到底輸入の金を調達するため公債を募らねばならないが、さういふことは出来ない、こいふこころまで心配して居ました時に、今いふ戦争が始まつて三拾六億といふ大きな金が取れたのであります。非常に結構なこころであつたのであります。しかしながら戦争が済みますと、再び日本の貿易は輸入超過になつたのであります。即ち賣るより餘計買ふのであります。大正八年から毎年如く輸入超過が續いて、多い時は六億、少い時でも參億といふやうな大きなものを買つたのであります。従つて今申しました巨額な金を貯めたのであります。こころが大正十二年地震が起りました頃には殆んど使ひ果してしまつたのであります。その時日本は手元に幾らの金も無い位使ひ果して困つてをたつたのであります。しかしながらだんだん爲替の状態が回復して来て、日本の貿易も多少、改善せられ、この分ならば日本の状態も落附てあらうと思つてをりましたのが、大正十一年から十二年であります。そのこころへ大正十二年の九月に地震が来たのであります。關東地方の大震災が来たのであります。この地震は日本の國に及びまして、經濟上重大な出来事であつたのであります。それ位の金高の財産を破壊したかハッキリした調べはつかぬのであります。しかしながら五、六拾億、乃至百億、少

くとも私は百億以上の財産を破壊したと信じてをります。その時の東京市内だけで地震の禍を蒙つたものが百五十萬人。家数が二十三萬軒、世帯数が三十七萬世帯といふ大きな罹災者があつたのであります。そして一時東京の街を去つて逃げたものが百萬以上あつたのであります。これほゞの財産を破壊されて、これほゞの悲惨な状態にあつて、さうすればこの被害を回復するこころが出来るかこいふこころを考へてみますと、これはさうしても速急に回復しなければ、この震災地方の復興はなるべく早くしなければ遂に再び盛んな街にはならぬのである、再び立つこころの出来ぬやうな状態になつてしまふであらうこいふこころを實は心配いたしましたのであります。さう考へますとこいふ一番最初に来るものは壊れた家を建てるこころ、家を建てるのが一番最初の考へであつたのであります。家を建てるには村木が要る、日本には山に森林が澤山あります。農商務省の國有林もあれば、宮内省の御用林もあります。しかしながらそれを伐るにしましても、それを柱にし、板にするにしても、それだけの製材所の設備こいふものが殆んど日本にはないのであります。三十萬軒の家を建てるにすればバラックにしても、何にしてもそれを建てるこいふこころを考へてみますと、全く日本には材料がないやうな氣がするのであります。のみならず、今日の建築にはトタン板が要る、鐵材が要るこいふこころを考へますと、それらのものは全くないのであります。然らばこれは外國に仰ぐより他はない、アメリカより買入れるほかに手段がなかつたのであります。製材所の設備をしや

うさか、いろいろなことを考へてみますけれども、到底そんなことは間にはない、電信柱一本でも二十日間するミアメリカから材木が來ます。さういふことを考へますと、非常に我が國は物を買はねばならぬ。戦争後輸入超過が毎年續いてを困つてゐるにも拘らず、この大震災のためには一層物を買はねばならぬ。買はねばこの震災地の復興が迅速に出來ない、それで一方には物を安く入れてやらうといふところのために輸入税を免除する、或は輸入税を安くしてやるさういふことをいたして、物が這入りよいやうにして、物の値段を安くするやうに計つてやつたのであります。かう考へて來ますと輸入の總量は非常な高になります。非常に輸入が殖えるといふことを豫期しながら、その時手元に幾ら金があつたか、外國に拂ひ得る金が幾らあつたかと言ひますと、その時六億たらずの金しか我國になかつたのであります。參拾億といふ金をだんだん使ひ果して、その時多少持つてをつたのであります。残つてをつた金は六億たらずしかない、その上に大正十四年期限の公債が參億五千萬圓ある、それでこの金に手をつけたくない、手をつければ大正十四年に書替へが出來ない事になります。さうすれば使ひ得るものは貳億乃至參億五千萬圓しかない、非常に巨額な輸入超過を來たしながら、それに對して支拂得る資金は貳億乃至參億しかない、かういふことを考へますと、その時からして爲替相場が下がるさういふことは當然期待される事實であつたのであります。その時の山本内閣の外國に發表したものに依りますと、内地に於ては日本の財政は剩餘金

が非常に巨額にあるから極めて安固である。しかしながら、外國の物を買ふために内地の金を調達することは日本の金融市場を攪亂する恐れがある、故に或は外國の金を借りる時代がくるであらうと發表してをつたのであります。さういふことを考へますと地震の始つた時四十九弗、日本の金の相場がアメリカの金の四十九弗、言ひ換へますと、先づ平時の値段です。平時の値段よりも少し安い位であります。先づ日本の金の取り前がアメリカの金にして四十九弗と言へばマア當りまへの値段であります。さういふ次第であつたのであります。これがここに説明するやうな次第でありますから、だんだんその日本の金の値段が下がつて來たのであります。さういふものをさすアメリカの金の値段がだんだん上がつて來つたのであります。あなた方が學校で講義に聞いてゐられる通り、一定の物があつたものに對して買手が多かつた場合必ずそのものの値段は上がります。貳億乃至參億五千萬圓しかないのに輸入超過であります。即ちものを買はなければ日本の復興が出來ないといふ時代にこのアメリカにある金の値段が高くなるさういふことは當然であります。貳億五千萬圓さういふ金が五億も七億も拾億も金の慾しいさういふ場合、このアメリカの金が日本の金に對して高くなるさういふことは、物價が上がつたり下がつたりするのと同じの動機からであります。大正十二年の暮には既に四十九弗の爲替相場が四十八弗に下がつた。大正十三年になりますと、だんだん下がつて來まして大正十三年三月二日には四十七弗半さういふやうなところまで下がつて來たのでありま

す。その時丁度外國で五億五千萬圓の金を借りたのであります。豫期されてをつた如くアメリカマイギリスで五億五千萬圓の金を借りたのであります。貳億五千萬圓しか金がないのでありますから、この金を借りなければならぬ。しかしながら、輸入は非常に殖ゆべき大勢でありますから、尙金を足りない、かういふことのために爲替相場が上がることは出來ないのであります。尙又だんだん日本の金は下がつて行つてアメリカの金はだんだん上がつて行つたのであります。丁度大正十三年の暮最も日本の金の低い時には三十八弗半さういふやうに安くなりまして、もこの四十九弗に較べるに二割何分さういふほざ下がつたのであります。アメリカの金が丁度それだけ上がったのであります。それは今いふ如く一定の金に對して買手が非常に澤山出て來たさういふところの極く簡単な理屈でそれが下がつたのであります。

爲替相場が下がりますと、さういふ風な次第になるかと言ひますと、私は一昨年頃爲替相場がだんだん下がつて來た頃外國に行つてをつたのでありますから、尙一層感じましたからここに話するのであります。一國の金の値段が下るさういふことは實は非常にその國に對する信用を落すのであります。日本は貧乏である、イギリスは金持であるさういふ抽象的言葉で云つてゐる間は議論でありますからさうでもないのではありません。しかしながらハツキリ目の前に日本の金が外國の金に比して二割何分も下がつてゐるさういふことを見せつけられますとモウ、議論の餘地がない、日本の信用がそれだけ落ちたさういふことになりま

す。諸君がよく出來るさか出來ないさかいふだけは議論であります。點数が落第點を取るさういふことだけハツキリ目の前に成績を見せつけられるのでありますから、それはもう議論でなくあります。それと同じであります。それで外國から見た時、その時大正十三年には非常に日本の信用を落したのであります。御承知の如くロシアのルーブルさういふ金は日本の壹圓に對してやはり壹圓少し以上の價値があつた金であります。その位の價値があつた金にも拘らず、ロシアの國の状態があの如く革命をいたしますと、いつの間にかロシアのルーブルは消えてしまつたのであります。ドイツのマルクも殆んど同様であります。しかも私が行つてをりました時に日本の爲替相場が非常に下がりました頃、フランスのフランも非常に下がつたのであります。今フランスの金の値段は普段の六分の一に下がつてをります。日本の金の値段が下がつたよりもズツと下がつたのであります。さういふ風に歐米の方ではその國の趨勢に依つて、その國の貨幣の價値が下がるのであります。その時よく人から聞かれたのであります。その時よく人から聞かれたのであります。フランスもドイツも同じです。フランスも財政困難のために或は亡びるかもしれない、日本は財政鞏固の國であると思つてをつた、戦争中金儲けをしたと思つてをつた日本が、今日の如く爲替相場が下がるさういふのは、或はロシアの如くドイツの如く、日本も遂に亡びるやうなことがあるのではないか、さういふやうな疑ひを以つて見てゐる人が少なくなつたのであります。外國人は澤山の日本の公債を持つてをります。

今日日本人の金で拾九億ほぎの日本の借金を持つてをります。その多数はアメリカ人が握つてをりますから、日本が亡びるか生きるかといふことに對しては自分達の利害關係が深いところでありますから、非常に心配するのは無理もなかつたことであります。

爲替相場が下がれば、即ち日本の金下がつて外國の金が上がれば、日本の貿易はさうなるか、實際的にさういふ風になるかといふことを数字に依つて以下説明して見るのであります。日本の一番大きい輸出品は生絲であります。日本の生絲は百斤貳千圓の相場であり、その百斤貳千圓の相場が地震前爲替相場が四十九弗であつた時はさうであつたかといふこと、アメリカでは幾らで買つてをったかといふこと、丁度九百八十弗で買つてをったのであります。日本で百斤の値段が貳千圓であつた時に、それをアメリカでは九百八十弗で買つてをったのであります。丁度爲替相場から割出しましてさうなります。然るに大正十年の暮に三十八弗に日本の金下がつて來ます。さういふこと、さうなるかといふこと、かういふことになりす。その時にアメリカの人が日本の相場が百斤貳千圓そのままでありながらアメリカの金の値段が上がつたのであります。それから、丁度その時の相場でいふこと、七百七十弗になります。地震前までは日本の金の値段が高かつたからアメリカの金では九百八十弗で買つてをったが、其後は日本の生絲の相場は同じでありますけれども、日本の金の値段が下がつたのでありますから、アメリカでは七百七十弗で買ふのであります。ここに

二百十弗といふ差が出て來ます、差が出るといふことは、アメリカは百斤二百十弗ほぎ安く買ふことになりす。アメリカの金の値段がそれだけ日本の金に比して上がったのであります。何にも日本に關係のないアメリカの方ではも三百斤の生絲を九百八十弗で買つてをったのを七百七十弗出せば同じ生絲が買へるさういふことになつたのであります。アメリカでは金の値段が下がつたために、安く賣れるやうになり、非常にそこに日本の生絲が外國に向つて賣りよくなりました。日本の生絲は元來他の生絲とは競争をせぬのであります。若し競争があつたならば非常に競争に勝つて、日本の生絲が安く、餘計に賣れたさういふことになりす。そこで、大正十四年日本の生絲は非常に澤山外國に賣れたのであります。しかしながらそれは爲替が下がつたために賣れたのであります。従つて爲替相場が下がれば、即ち日本の金下がれば輸出には非常に便利になる、輸出は非常に盛んになる、かういふことになりす。反對に輸入は非常に不便になります。なぜ不便になるかといふことは、アメリカの一封度の棉が二十五セントします。大概その頃に二十五セントでありました、今日は非常に下がつてをります。先づ一封度二十五セントといふこと、それを四十九弗の相場の時はさうなるかといふこと、日本の金に直すと五拾參錢八厘になります。三十八弗の時はさうなるかといふこと、六拾四錢九厘になります。そこに拾何錢の差があります。アメリカでは依然として二十五セントの一封度の棉が日本へ持つて來る、丁度拾何錢高くなります。従つて爲

替相場が下がれば日本に於ける日本の物價は高くなります、アメリカでは同じものであるが日本へ持つて來れば高くなる、日本の金の價値が下がつたのでありますから、それによつて評價される値段が高くなるのは當然であります。それで大正十三年の暮から大正十四年一二月といふ頃には今いふ如く三十八弗五十仙といふ最低の相場に下がつてをったのであります。それがだんだん日本相場が高くなつて來まして、今頃になります。四十七弗半といふところまで返つて來たのであります。その返つて來りました経路を私はここに一つお話いたします。この経路をお話いたしますことは聽ては今後の日本の爲替の見込みを立てる上に必要でありますから、それをお話いたします。それをお話いたします。學生諸君も、國際貸借といふものは斯くの如く現はれるものであるさういふ觀念が得られるだらうと思へます。それは一番最初に爲替相場が下がつたり、上がつたりする動機は支那人が日本の金に對して投機を行ふさういふことあります。スベキュレーションをやるさういふことあります。スベキュレーションの話をさういふことは學生諸君に如何と思ひます。しかし爲替相場が上がつたり下がつたりすることに對しては全くスベキュレーションが動機になるのでありますから、先づその道行をお話してをきます。二月の初には日本の爲替は安かつたのであります。二月十日前後から、たんだん上がつてくる傾きがあつたのであります。その動機は上海のスベキュレーションであります。御承知の如く支那は銀貨國であります。日本は金貨國であります。が、

支那は銀貨國であります。が尙又支那は舊弊な國でありまして、總ての一ヶ年の勘定を、何時でも舊節季にいたします。丁度舊節季が二月十日位になるのであります。さういふことをいたします。然るに舊節季の總決算には非常に巨額な銀を要するのであります。支那人は銀を買ひ求めるのであります。多くはロンドンから買ひ求めるのであります。自然支那の舊節季前には銀の値段が高くなるか、或は高くなるまでも非常に強い氣配になるのであります。然るに舊節季の總勘定が済みます。銀の値段は下がるのであります。そこで支那人は今自分の持つてゐる銀は必ず時節が來たら下がるものである、それならば下がるべき銀を下がらないものに替へておかねばならぬ。かういふことを考へるのであります。然るにズット世界中を見渡して見る、日本向の爲替さういふものが一番安全である、上がらぬけれども少くも下がるさういふことはいふことではないであらう。かういふことは常時誰れでも考へられる次第であつたのであります。殊に日本政府の御役人は日本の爲替は下けない、極力維持して下けないさういふことを大きな聲で廣告したのであります。支那のスベキュレーターがさういふことを考へるのは決して無理はない。そこで下がるべき運命をもつてゐるこの銀をもつて日本の金に替へやうさういふ案を立てたのであります。それならばそれがさうして日本の爲替相場に影響するか、さういふことをすれば日本の爲替相場がさうして上がるであらうかといふことを私は極く平たくお話いたします。假りに言へば日本の爲替銀行が東京にも上海にもニュ

一ヨークにもロンドンにも店をもつてゐるの
 でありましたが、上海の店に銀をもつてゐる人
 が来て、私に日本向の爲替を賣つて下さい、
 日本向の手形を賣つて下さいといつて來るの
 であります。それで日本の爲替銀行はそれを
 賣ります。賣りますとその銀が銀行の手に
 這入ります。さうするご銀行も考へは同じで
 ありますから、この銀は必ず下がるさいふこ
 こを考へますから、その銀を直ちに他の何物
 かに替へねばならぬ。何に替へるかといふ
 日本向の爲替を賣つたのでありますから、そ
 れ以外のものはいへばアメリカ向かイギリス
 向の外はないのであります。世界の取引とい
 ふものはさういふ風になつてをりますため
 に、手形を賣つて這入つた銀を、こんごはそ
 の銀を出してアメリカ向かイギリス向のもの
 を買ふのであります。さういふことを上海に
 居る日本の爲替銀行か外國の爲替銀行がやる
 のであります。さうするご東京の方へ支那人
 に賣つた手形を送つてくる、そこで東京の銀
 行の立場から見ますと、自分のところでは
 上海に金を借りてゐる、支那人のスペキュレ
 ーターの手形に對していつかはその金を拂は
 なければならぬ、早晚金を拂はねばならぬ手
 形が澤山來てゐる、しかしながらニューヨーク
 或はロンドンを見ますと、自分の金がそこ
 こにチャンスある譯であります。なぜならば
 上海の支店が銀を出してニューヨーク向或は
 ロンドン向の爲替を買つた、そこに金が這入
 つてゐるこゝになります。これは専門的な説
 明ではなく非常に平たく言つた説明でありま
 すが、事實はさうなります。さうするご東京
 から、即ち日本から見ると、日本の勘定では、

上海に金を借りてゐるけれども、イギリスや
 アメリカには相當の金が溜つてゐるさいふこ
 こになるのであります。日本の爲替資金が殖
 えたさいふここになります。二億か三億しか
 ないその金が殖えたさいふここになります。
 この金を使ひたい人は澤山ありますが、この
 金がなかつたからアメリカの金が上がつて日
 本の金が下がつたのであります。今度逆に
 日本の金が殖えたのでありますから、支拂資
 金が潤澤になつた。アメリカの金からいへば
 日本の金の方が高くなつたのであります。こ
 ろで銀行の側からいふと溜つた金は早く使
 ひたいと思ふからなるべく早く使ふ、即ち輸
 入手形を買入れるこゝになります。買手が多
 ければ相場は上がります、さういふこごが上
 海から來たのであります。それで爲替相場が
 四十二弗まで上かつたのであります。三弗半
 日本のお金ですれば丁度七分ばかりそこに差が
 出來たのであります。日本の金が二割何分下
 がつてをつたのが、七分ばかり取返したので
 あります。高くなつたのであります。然るに
 その金はされ位であるかといふと少くとも一
 億位の金が來たと思ひます。一億位のスペキ
 ュレーションの金が來たのであります。しか
 し爲替相場が上がると支那人は到底長く金を
 日本に置く人ではないからその金を上海の方
 へ持つて歸ります。先刻述べましたやうに日
 本の銀行に手形が來てゐる、上海に金を借り
 てゐる、その支拂をしなければならぬ。そこ
 でそれを支拂ひますと、爲替相場は再び下
 がつて、四十弗といふこご位に去年の六・
 七月頃はあつたのであります。即ちスペキュ
 レーションの方から金が來る場合爲替相場は

上がるが、その金を元に返した場合斯くの如
 く下がるのであります。丁度株で申しますと
 ご定期で先物を買ひます。買手が多ければ値
 段が上がります。買つた値段と先物の値段が
 違つてくると株を取取る人ではないから、相
 場で儲けやうとする人でありませうから、値
 段が上がるに賣ります。賣るごその株は下がり
 ます。丁度上海の支那人が日本の金に對して
 スペキュレーションをやつたの、大阪や東
 京の定期で差金を目的として相場するのと同
 じであります。しかしながらスペキュレー
 ションといふものは決して反對の事實には現
 はれないのであります。爲替相場が上がるべ
 き大勢がそこになければ決して日本の金にス
 ペキュレーションといふものは來るものでは
 ないのであります。それでありませうから、日
 本の爲替相場が上がつたことを單純にスペキ
 ュレーションのためだらうと考へるご大變な
 間違であります。根本に日本の爲替相場がだ
 んだんよくなるべき大勢があつた、そこにス
 ペキュレーションをもつて來たさいふこごに
 なります。それで上がるべき大勢のこごに
 スペキュレーションが來たから餘計上がった
 さいふこごになります。これは實際の點に於
 ては今日も同じでありますから、私はさうい
 ふ譯で根本に日本の金の外國關係がよくなつ
 てゐるかといふことを申して見ますと、爲
 替相場が下がるご日本の貿易輸出は大變に殖
 えます。先刻お話ししました如く生絲の如
 き非常に賣りよくなります。従つて昨年の中
 生絲關係の輸出高が八億以上になつてをり
 ます。これまでにない大きな高を外國に出し
 た譯であります。即ち爲替相場が下がつたか

ら外國に品物を出しよくなつた、のみならず
 棉は高くなるけれども、輸入爲替のために高
 くなるけれども、爲替相場が下がつてゐるた
 めに綿布の輸出も便利になりインド、エジプ
 ト、バルカン半島その他兩アフリカさういふ
 方面に意外に日本の綿糸綿布が輸出された、
 巨額な輸出を致したために昨年度はだんだん
 輸出がよくなつたのであります。それが一つ
 の根本になります。も一つ日本政府が現金を、
 金塊を外國に送つたことでもあります。現貨を
 外國に送つた、今年今迄に恐らく貳千五・六
 百萬圓の金を送つてをります。貳千五・六百
 萬圓の金を送ればそんなに外國關係に影響あ
 るものであらうかご疑はれるでせうが、日本
 の對外關係は貳千萬圓や參千萬圓ではさほご
 動くほご小さいものではないのであります。
 それで送つた金そのものが爲替相場の變動に
 何等の影響はないのであります。しかしな
 がら、かう考へますと非常に影響があるの
 であります。政府の持つてゐる金貨は僅か
 であります。しかしながら、日本銀行の倉に
 は拾壹億さいふ大きな金貨を持つてゐる。日
 本は金貨を送るさいふこごを決心したのであ
 る、政府自ら持つてゐるものを送るさいふこ
 ごを決心した以上は必ず日本銀行のあの拾壹
 億の金も外國に送つてくるであらう、さうす
 れば今の輸入超過の支拂資金を拵へるのは極
 く簡單である、さう考へて將來を豫想したの
 であります。さうでありますから、さう考へ
 るごそこに非常な日本の國債貸借に強い影響
 を與へるさいふこごなのであります。それか
 らも一つの爲替相場を改善したこごは、十三
 年から十四年にかけて外國で澤山の金を借り

たのであります。あなた方も知つてゐる如く大阪の宇治川水力、或は大岡電力、東邦電力、東京電燈といふものが金を借りたのであります。それだけ外國に日本が持つてゐる金が殖えた、貳億貳千萬圓ほゞ殖えたといふことになりませんから、スベキュレーションによつて殖えたのも金を借りて殖えたのも同じ影響があつて、ここに爲替相場が上がるべき大勢になつてをたつたのであります。それに今いふ如く上海のスベキュレーションが来たのであるからだんだん爲替相場が上がつて来たのであります。今度はニューヨークの方から又十月十一月には同じく日本の將來に見込みを立、スベキュレーションをして来たのであります。しかしながらよく考ふべきことはニューヨークから来たスベキュレーション、上海から来たスベキュレーションといふものは全く違ふのであります。上海の側からいふ自分の銀が下がるから、その銀の處分として日本の金がよくらう、かういふ風な見込みで来たのであります。然るにニューヨークから来たものはニューヨーク自體の事情にあらずして日本の將來に就て考へた結果から来たのであります。日本の將來に就て考へたことがよく現はれてゐるのであります。日本の爲替相場もだんだん改善するといふことが一つ一つは日本は今爲替相場が下がつてゐるけれども何等それに對して人爲的處置を取らぬのである。去年の二月日本の爲替相場が上がつたのは上海のスベキュレーションのためもあるけれども日本には餘程實力があつて上がつたものである。決してそれに對して人爲的處置をこつたものではないといふことを考

へたことが一つであります。これはフランスが人爲的なことをやつてゐるのであります。フランスの相場が上がるといふことはフランスでは非常にあはつて出来るだけ人爲的處置をしてフランスを下げないやうに維持しやうとかかるのであります。それに就いてアメリカ人はイヤ氣をさしてゐるのであります。フランスは財政困難である歳入は歳出に足らぬのである、毎年公債を發行して漸く保つてゐるが、そのバランスを合せて行くことは只人爲的にやることでは不可能であるといふことを世界中の人が考へてゐるながらもフランス人はさういふことをやるのであります。さういふことにイヤ氣をさしてゐるのに日本のやりかたは何等人爲的でない、爲替相場が上がつたのは實力がある結果である、かういふことが非常に考へられて一つの原因をなしたのであります。それから現在の政府の政策が緊縮方針をこつてゐる、これが又爲替相場に非常な有利な影響を與へたのであります。かういふ風に日本の事情を考へてこれは必ず將來爲替相場が上がるべきものである、日本の國際貸借の改善は出来るものであると考へてスベキュレーションをしたのであります。それでありますから、そこに非常な兩者の間に違ひがあるのであります。しかしながら、兎に角日本の爲替相場に對するスベキュレーションでありますから、このスベキュレーションが成功すればその金を持つて歸るといふことのために常に今日まで爲替相場があつたり、下がつたりして結局今年になつて只今大體上向いて四十七弗乃至四十六弗といふやうなところに動きだしたのであります。

爲替相場が四十七弗まで上がつて来た、さうするといふ先刻お話しした三十八弗半に下がつた時には日本の輸出は便利になつたのであります。今度は上がつて殆んど九弗——一割八分も日本の金の價值が高くなつてくる、反對に輸出はしにくくなります。この輸出がしにくくなつたに就ては先般來大騒ぎをしてゐることであります。それが日本の生糸に直接現はれてをります。前の三十八弗半の場合には日本の生糸は百斤に就て貳千圓のものをアメリカ人は七百七十弗で買つてをたつた譯であります。然るに四十七弗になりますと、日本の生糸は依然百斤貳千圓でありながら、アメリカ人はそれを九百五十弗出さなければ買へない、それだけ日本の金の價值があつたのであります。しかしなほ若しアメリカ人が自分はその間に高く買へない普通の七百七十弗でなければ自分は買はない、さうなる、日本の生糸を百斤に付き壹千六百貳拾圓に下げなければ賣れぬことになります。さういふ算盤の結果になります。さうなる、事實はさうなるかといふ、尙一層深刻になつて、アメリカに於ける日本の生糸の相場が更に下つて壹千六百貳拾圓が更に千四百七拾圓に下がつたのであります。それがために日本の生糸は非常な恐慌を起しまして殆んど全國から横濱にかけて大恐慌を來したといふ事實があるものであります。あなた方お聞きのことと思ひます。ところが日本の生糸といふものは生産費が壹千四百七拾圓ではとても出來ない、いろいろな關係上少しは違ひませうが、恐らく壹千五百圓以上壹千六百圓以下でありませうが、多く壹千六百圓でなければ日本の

養蠶といふものは生産費が釣り合ひませぬ。さうなればさうなるかといふ、繭の買入れ月が來てもこの六月の買入れ時季になつても、繭を賣る人は壹千四百七拾圓の値段では損をするから出さない。今日日本の生糸は八割以上九割近くは輸出してをりまして、爲に日本の養蠶といふものは殆んど日本全國の地方に行はれてゐるのであります。それが六月になつて繭があるからさういふても損をする値段では誰も賣らない、そこで製糸業者もやれないといふことになり、養蠶家も製糸家も日本國民全體の問題になりますから、それがために壹千四百七拾圓に生糸の値段が下がつたといふことは重大な問題を惹き起したのであります。それはかう考へねばなりません。爲替相場が上がるといふ日本の金の價值が上がる、さうするに輸出にかくの如き影響を與へるものである。百斤貳千圓であつた生糸が壹千四百圓に下がつた、そこに六百圓の差が出來た、かういふことを考へねばなりません。私が後にお話する金輪解禁問題の如きも、かくの如きことを頭に入れて考へるべきであります。しかしながらそれと共に今度は爲替相場が上がつたために日本の棉の値段といふものは非常に下がつた、そして非常に物價を引き下げ吾々の木棉を着てゐるものに幸ひを與へたことでもあります。それも經濟界に種種なる影響があります。丁度今年一月にアメリカの棉の相場が一封度二十仙でありましたが、それが爲替相場が上がるに同時に十八仙に下がつたのであります。従つて日本の百斤の棉の値段が大體七拾參圓したものが、五拾八圓に下がつてそこに拾五圓の差が出來たのであります。

す。棉が拾五圓安くなるをそれに依つて出来た木棉は非常に下がる譯で國民全體に非常な結構なこゝでであつたのでありますが、その反面にはかういふこゝがあります。日本の紡績會社は三ヶ月乃至四ヶ月分の棉を手元に持つてをります。買つけたものは途中に送つて來つたつあるもの、手元にあるものを合せて、兎に角四ヶ月分位の棉を日本の紡績會社は持つてをります。その棉が百斤につき拾五圓下がつた譯であります。日本の紡績會社の持つてゐる棉が幾らあるか知れませぬが、それが拾五圓下がつた、それで紡績會社は非常な損をした、かういふこゝがあるのであります。かくの如く爲替相場が上がつたり下がつたりするこゝは日本全體の金融經濟に、かくの如き變動を與へ國民全體にも影響を及ぼすものであるこゝは一二の例をここに述べたのであります。

今イギリスでは石炭業者所謂坑夫のストライキをやつてをります。イギリス全體ストライキをやつてをりますが、そのイギリスのストライキの出來て來た譯はこゝの日本の生糸が下がつた經路が同じ經路を辿つてゐるのであります。御承知の如く棉が下れば綿糸綿布が下がります。従つて爲替相場が上がるこゝはこゝのためにイギリスなり日本の物價は下がるのであります。即ち爲替相場が上がるこゝは即ち日本の金の對外的價値が上がるれば物價は下がるのであります。日本の對外的價値が上がるこゝは安くなります。さういふ因果關係がありまして、爲替相場が上がるこゝは非常に結構なこゝであります。しかし生糸を考へますと生糸業者には大

なる恐慌を及ぼすものであります。我國の生糸業者、繭や糸を作るものは殆んど外國貿易に關係のないものであります。製品は悉く外國に出すけれども、物を捨てる方の人からいふと外國の爲替相場が直接影響してくるこゝはこゝなきあまりない。日本の家に住つて日本の米を喰つて手練で拵えるこゝは多分ないのでありますから、殆んど爲替相場の直接影響は殆んどない。爲替相場が上がるこゝ、生産費が下がるかこゝいへばそれは着る着物の木棉が安くなつた位だけで直接生産費には影響は及ぼさないのであります。こゝが外國の爲替相場が上がつて、即ち日本の對外的金の價値が上がつたために日本の生糸が下がつた、生糸の値段が下がつただけ生産費がそれだけ下がりさへすれば何でもない譯であります。生産費は下がらない、それでありまして、千四百圓では日本の養蠶は出來ませぬ、製糸も出來ませぬ。然るに壹千四百圓でなければ向ふが買つてくれないこゝは、こゝにさういふ二つの事實が出てくるのであります。イギリスの石炭とそれが丁度同じこゝであります。イギリスが昨年の四月金の輸出解禁をしましたが、輸出解禁をするこゝ爲替相場が上がつたのであります。爲替相場が上がるこゝイギリスの石炭の値段が下がらねば外國品と競争が出來なくなる、丁度今の日本の生糸と同じ譯であります。イギリスの金の對外的價値が上がつてくるこゝ石炭の値段を下げねば賣れなくなる、そこで値段を下げるを得ないから下げた、値段を下けたがために石炭の生産費が下がるかこゝいふこゝ、丁度日本の養蠶の場合と同じで、石炭の坑夫には爲替相場に關

係がない、そこで生産費は下がらない、石炭の値段を下げなければ外國品と競争が出來ない、そこで仕事をやめるこゝはこゝのために石炭坑夫の失業者が昨年一月十日前より去年の六月には三十萬を殖えてゐる、それで今後のイギリスのストライキの如きもかういふこゝに動機を起してゐるのであります。日本の生糸がこゝのイギリスの石炭に較べるこゝ殆んど同じであります。

ギリスは必ず金の解禁をするであらうこゝはこゝの見込みをつけてイギリスの金に對するスペキュレーションが來てをつたのであります。日本の今頃イギリスの丁度一昨年の暮れから昨年の十二月にかけての事情が同じ經路を經てゐるのであります。さうでありますから、將來を豫測しますと、必ずスペキュレーションが殖えねばなりません。殖えれば日本の爲替相場は動く、動くのみならず尙一層高くなります。ある場合はウンミ下がります。上がつたり下がつたりすることが必ずあると思ひます。さう考へて來ますと、ある場合は日本の爲替相場が四十八弗にもなるこゝを、吾等は豫期してをかねばなりません。それを豫期する場合に今日問題の金の輸出禁止こゝをこのままにしてをくものであらうか、或は解禁すべきであらうか、こちらが本當であらうかこゝいふ問題が起つて來ます。私は一昨年三十八弗半に下つた時代に金の解禁を世間で叫んだ場合、私は絶対に反對したのであります。三十八弗に下つてゐる場合金の解禁をしたならば直ちに四十九弗こゝいふやうな相場に上つて急激な變化を起すこゝは、それは机の上の議論である、何にも實際問題を考へない議論であります。さういふこゝが簡単に出來るならば何にも財界のこゝを知るこゝ、知らぬこゝいふ必要はない。机の上の議論であります。そんなに容易く行くものじやないこゝ極力反對したのであります。しかしながら今日爲替相場が四十八弗半か或は四十八弗まで上つて來た今日こゝの時々は全く事情が異つてゐるのであります。私は簡単に申しますれば、今日金解禁を

なる恐慌を及ぼすものであります。我國の生糸業者、繭や糸を作るものは殆んど外國貿易に關係のないものであります。製品は悉く外國に出すけれども、物を捨てる方の人からいふと外國の爲替相場が直接影響してくるこゝはこゝなきあまりない。日本の家に住つて日本の米を喰つて手練で拵えるこゝは多分ないのでありますから、殆んど爲替相場の直接影響は殆んどない。爲替相場が上がるこゝ、生産費が下がるかこゝいへばそれは着る着物の木棉が安くなつた位だけで直接生産費には影響は及ぼさないのであります。こゝが外國の爲替相場が上がつて、即ち日本の對外的金の價値が上がつたために日本の生糸が下がつた、生糸の値段が下がつただけ生産費がそれだけ下がりさへすれば何でもない譯であります。生産費は下がらない、それでありまして、千四百圓では日本の養蠶は出來ませぬ、製糸も出來ませぬ。然るに壹千四百圓でなければ向ふが買つてくれないこゝは、こゝにさういふ二つの事實が出てくるのであります。イギリスの石炭とそれが丁度同じこゝであります。イギリスが昨年の四月金の輸出解禁をしましたが、輸出解禁をするこゝ爲替相場が上がつたのであります。爲替相場が上がるこゝイギリスの石炭の値段が下がらねば外國品と競争が出來なくなる、丁度今の日本の生糸と同じ譯であります。イギリスの金の對外的價値が上がつてくるこゝ石炭の値段を下げねば賣れなくなる、そこで値段を下げるを得ないから下げた、値段を下けたがために石炭の生産費が下がるかこゝいふこゝ、丁度日本の養蠶の場合と同じで、石炭の坑夫には爲替相場に關

係がない、そこで生産費は下がらない、石炭の値段を下げなければ外國品と競争が出來ない、そこで仕事をやめるこゝはこゝのために石炭坑夫の失業者が昨年一月十日前より去年の六月には三十萬を殖えてゐる、それで今後のイギリスのストライキの如きもかういふこゝに動機を起してゐるのであります。日本の生糸がこゝのイギリスの石炭に較べるこゝ殆んど同じであります。

ギリスは必ず金の解禁をするであらうこゝはこゝの見込みをつけてイギリスの金に對するスペキュレーションが來てをつたのであります。日本の今頃イギリスの丁度一昨年の暮れから昨年の十二月にかけての事情が同じ經路を經てゐるのであります。さうでありますから、將來を豫測しますと、必ずスペキュレーションが殖えねばなりません。殖えれば日本の爲替相場は動く、動くのみならず尙一層高くなります。ある場合はウンミ下がります。上がつたり下がつたりすることが必ずあると思ひます。さう考へて來ますと、ある場合は日本の爲替相場が四十八弗にもなるこゝを、吾等は豫期してをかねばなりません。それを豫期する場合に今日問題の金の輸出禁止こゝをこのままにしてをくものであらうか、或は解禁すべきであらうか、こちらが本當であらうかこゝいふ問題が起つて來ます。私は一昨年三十八弗半に下つた時代に金の解禁を世間で叫んだ場合、私は絶対に反對したのであります。三十八弗に下つてゐる場合金の解禁をしたならば直ちに四十九弗こゝいふやうな相場に上つて急激な變化を起すこゝは、それは机の上の議論である、何にも實際問題を考へない議論であります。さういふこゝが簡単に出來るならば何にも財界のこゝを知るこゝ、知らぬこゝいふ必要はない。机の上の議論であります。そんなに容易く行くものじやないこゝ極力反對したのであります。しかしながら今日爲替相場が四十八弗半か或は四十八弗まで上つて來た今日こゝの時々は全く事情が異つてゐるのであります。私は簡単に申しますれば、今日金解禁を

することが宜しいかしてはいかぬかといふやうな議論をするものでなくして、金解禁をするための用意をしなければならぬ、かう主張するのであります。金の解禁の用意をいたしますことに就いては、世の中には一つの便宜論を稱へる人がありますが、しかしながら、金の解禁といふものはやるべき時には是非ともやらなければならぬのであります。國民全體が金解禁をすることに極力努力しなければならぬのであります。金の輸出禁止といふものは一種の變則でありまして、本來は金の輸出を禁じてをくのが本當であります。金の輸出を禁じてをくのが本當であります。金の輸出を禁じてをくのが本當であります。金の輸出を禁じてをくのが本當であります。

も絶対でないのであります、尙又今日私かここでこれだけ大きな聲で議論をしてゐることも金の解禁があつたならば一言半句も言ふ必要はないのであります。然るにこれを禁じてをりますからかくの如きことが出てくるのであります、金の解禁といふことは出来る時が来たならばやらなければならぬ。出来る途があつた時にこれをやるべく努力しなければならぬ。かういふことを根本にをかねばならぬと思ふのであります。しかしながら、今言ふ如く輸出業者は三十八弗に下つた時の夢を見てをて爲替相場が少し上つても生糸業者は混雑してゐるじやないか、かくの如く恐慌を来たしてゐるではないか、これを見れば解禁するに尙恐慌を増すばかりである。かういふやうにいふのであります。しかしながら、それは非常な嘘であります。金の解禁は出来る時が来たならばどんな時でもしなければならぬ

らぬ 只問題は無闇にすべきでなくして充分な用意をしなければ金の解禁は出来ぬのであります。私はその用意のこゝを一つ簡単に話いたしました。

第一、國の貨幣が世界各國から投機をされて、自國の立場からではなしにその國の貨幣が上つたり下つたりすることは、これは日本にござりましては一大事件であります。非常な恥辱であります。戦争がありまして、世界中各地で非常にスベキュレーションが繁昌いたしました。ルーブルが下がるミアメリカ人がルーブルを買込んだ、今下つたからさうして買込んで他日上るのを待つてをつた、恐らく一億ルーブルはアメリカ人が持つてをつたと思ひます。それが皆煙の如く消へてしまつたのであります、さうした風にスベキュレーションが流行つたのであります。それからオランダの如きもマルクに對して非常なスベキュレーションをやりまして、ザツとした話ではあります、勿論信用は出来ませぬが、オランダは戦争中非常に儲けた國であります、その儲けの半分はマルクのスベキュレーションで吐き出しましたといふことであります。又最近の報道に依ればオランダのある爲替業者はフランスのフランの下るこゝをスベキュレートして非常に儲けたといふことであります。世界中スベキュレーションといふものを戦争中から外國の金に對してやるこゝが流行つたのであります。しかしながら一國の貨幣がその國自體から割り出された事情によつて價值が出たのでなくして、外國のスベキュレーションのためにその貨幣の價值が出るこゝは非常に恥辱であります。日本の貨幣

の價值を、所謂信用を落すのであります、外國人がチヨット見ましても日本の貨幣の今の價值はこれだけである。しかしながら、これは日本の實力であるか、或はスベキュレーションのためであるか、何人も判らぬこゝであります。ものは總て道理に基いた結果が出てくれば安全であります、スベキュレーションのためには何にも道理に基いてゐるものではないのでありますから、日本の爲替といふものは全く道理によつて考へるこゝは出来ないものであります、従つて日本の信用を落すこゝは非常なものであります。のみならずスベキュレーションのためにかくの如く急激に相場が動きますこゝは懸てひいては日本の産業の不安定を來たすのであります。一例を申しますれば今の如く生糸或は紡績會社の如き棉の値段が一定しませぬから、買つて

いいのやら、賣つていいのやら、さうしていいのやら、殆んど判らなくなりまして、自分の金の値段よりもスベキュレーションからくる爲替相場の影響の方が多いのでありますから、人は皆自分の業務よりも先づ爲替相場のスベキュレーションの状態を氣をつけて見てをつた方がよからうといふこゝになりまして、日本の産業といふものは遂に不安定になり、基礎をなくするのであります。さうなる重大な事件であります、これは何處から來るかといへば日本に金の解禁がないからであります。金の輸出を禁止してゐるから、かくの如くスベキュレーションが來るこゝはほかにないのであります。従つて金の解禁はぎの方面から考へましても出来るだけこれに努力しなければならぬ。出来る時期が來たならば何時

でもやらなければならぬ。しかしながら用意なくしては出来ぬ、そこに事情があります。なぜか申すに假りに現在の實狀に就て言ひます、今恐らく貳億位のスベキュレーションの金が日本に來てをります。さうして、その代りには日本の公債さか、社債さか巨額なものを買つてゐるのであります、それで今日直ちに解禁したならば爲替相場が四十七弗乃至四十六弗の金を日本に送つてをつたすれば、金の解禁をするこゝそれが四十九弗になります。さうするこゝに三弗ばかりの利益が生じます。四十六弗の金を送つてをつたものが金の解禁があつたならば四十九弗即ち六分の利益が生じます。百萬圓に就て六萬圓の利益があるといふこゝになります。さうでありますから、ここに貳億のスベキュレーションによつて日本に金が來てゐる場合金の解禁をすれば貳億の金は全部外國に出て行きます。

外國貿易で出來た金はさうなるか言ひます、これは日本のものを賣つたものでありますから、外國の者がその金を持つて歸るこゝいふこゝは出來ぬのであります。しかしながら、スベキュレーションで來た金は持つて歸らなければ利益が得られないのでありますから、全部金を外國に持つて歸るこゝになります。そこで持つて歸る時方法が二つあります。一つは爲替で外國に送りまして、若し日本が外國に金を潤澤に持つてをればその貳億の金を爲替で送つてやります。さうすれば爲替相場が四十九弗でありますから、非常な利益が得られる譯であります。こゝろが若しこの金がかつたすれば、外國にその金がかつたすれば、さうするこゝが出來ないから、日本

の金を皆外國に持つて行くことになりま。それで金の輸出を解禁すればスベキ。ケルーションで來てゐる金は全部が出て行きます。金を持つて出るに金なればさうなるかと言ひます。現在アメリカ行きの船は五つの線がありまして、恐らく一ヶ月に船が六隻か七隻行きます。その一隻の船に金貨を積めるだけ積むと保険料その他合せて先づ五・六百萬圓、保険料が少し高ければ恐らく壹千萬圓位は積めませうから、まあ七・八百萬圓積めるにいたします。さうするに一ヶ月の中に四・五千萬圓の金を持つて出られることになりま。それで貳億の金を全部持つて行くには四ヶ月の中に全部持つて行つてしまひます。さうなつた時に日本はさうなるか、二つの結果を生じます。一方には貳億の通貨を縮めたします。日本銀行の立場がら云ひます、通貨を縮められて、又再び通貨を出すことが出来ない、金貨をさられて、全部金がないから出すことが出来ない、それで四ヶ月間に貳億の通貨が縮められます。縮められたならばそこに非常な影響を與へます。一つの影響は毎船に七・八百萬圓の金貨が積込まれて出るのでありますから、さうなるにさうなるかといふ、ここに恐らく新聞社の方もをられませうが、新聞では非常な大きな見出しで日本の金貨がこの船でこれだけ積出した、この船ではこれだけ持つて行つたと言ひ立てます。その時に實業家はさういふことを考へるかといふ、非常に神經を悩ますのであります。これは理屈ではありませぬ。所謂實業界の神經が如何に働くかといふことは見通すことの出来ない要素であります。そこに非常な恐怖心を起すの

であります。その結果は丁度今日イギリスのストライキに對して、世界各國が心配してゐる如く、イギリスは金を解禁したがストライキのために再び金の輸出を禁止するのではなからうか、禁止されてはたやらぬから、今のうちに早く持つて行かぬばならぬといふやうなことになるに思ひます。そこで毎船に四・五百萬圓の金貨が積んで行かれるやうになるに、矢張日本に對してさういふことがないともいへない。あつたならばさうなるかといふ、日本で金を調達して無理やりに日本の金を外國に持つて行くといふことが出來て來ます。さうするに金の輸出を再び禁止しなければならぬことにならぬとも限りませぬ。さうなれば日本は破滅であります。そこに到るに恐しい結果を生ずるのであります。然らば爲替で取つたならばさうなるかといふ外國に金の準備が出來てをれば爲替で取ることは容易であります。しかしながら、金がないにさうなるに日本銀行の通貨を出すことが便利でありますから、日本銀行の通貨を出すことになりま。それで同じ通貨が減るにいつも金を持つて行かれる場合に、爲替で送るために通貨が縮少する場合は、大分相違があるのであります。さうでありますから、金解禁の準備といふことは何であるかといふ外國に金を拵えるといふことではあります。何れの途を取つても外國に金を拵えてその上で金の解禁をするといふことが私の意見であります。

イギリスでは金の解禁を昨年の四月二十八日にしたのであります。その時さういふ用意をしたかといふことを参考のためにここに申して見ます。非常に日本に参考になりま。第一は、イギリスはアメリカに對して三億弗の金を借りたのであります。少くも借りるにさういふ約束をしたのであります。自分のところから金が澤山出るやうなことがあつたならば金を出しては困るから、その時はおまへの方で金を貸してくれ、その時は爲替で送るからさういふ三億弗の金を用意したのであります。その次にイギリスには日本にない非常によい武器があります。それは金利引き上げといふ武器であります。日本の今の事情ではそれは全く適用出来ないであります。御承知の如くイギリスでも、ニューヨークでも非常に巨額な金が外國から這入つてをります。世界戦争中から、金がイギリスに澤山這入つて來てをります。その金が出て行くのを金利を上げますといふ、止まるのみならず、尙進んで新しい金か這入つてくるのであります。イギリスはそれで金の解禁をする前に金利を五分まで引き上げたのであります。これは全く金解禁準備のためであります。爲替相場も金利といふものが、イギリスでは頗る微妙な因果關係がありまして、四月に金の解禁をして、非常に成功した、その場合は殆んど金が出ない、非常におさまつた。そこで六月か七月でありましたが、モウよからうといふので金利を四分に下げたのであります。金利の安いといふことは何人も希望することでありませぬ。爲替相場の維持が出來たので、モウ引き上げて置く必要がないから、四分に下げたのであります。するに直ぐに爲替相場が下つた。下るに非常に澤山の金がイギリスから出て行つたのであります。それで又再び金利を五分に引き上げ

て見るに爲替相場が元に戻つて外國から金が這入つて來たのであります。ところが日本はさうであるかと言ひます、外國から日本の事業に放資してゐるものは多少あります。しかし常に動いてゐる外國の金といふものは日本に殆んどないのであります。従つて金利を上げて金の出て行くのを止めることが出來ない、スベキケルーションで來てゐる金は持つて歸らないに儲からない金であります。それで、その金は日本に置くかひはないのであります。そこで外國に持つて歸りますから、金利を上げてその金を引き止めることが出來ない、ただ金利を引き上げるに輸入資金を拵えにくくなる輸入がしにくくなります。そこで日本の物價が下がります。金融が引き締つて物價が下がります。その結果輸出が殖えて輸入が減るにさうなるに思ひます。かうなりますから、日本の金利引き上げは外國の爲替相場に直接關係はありませぬ。尙イギリスにも一つ方法があつたのであります。これも金利引き上げと共に行はれたのであります。イギリスは外國に金を貸してをります。外國に金を貸すといふことは外國に金を持つて出るにさういふことではありますから、爲替相場の維持に困難な場合、外國に金を貸すことを當分止めさせたのであります。日本は遺憾ながら金を貸さぬ國でありまして、さういふことは常に、實際にはやりにくい何等考にならぬことではあります。それでイギリスでやつた中で参考になることは金を借りる用意をするに思ひます。金を溜めるといふことは種種様様な方法があります。しかしながら、現在に於ては日本の金が幾らあるか

いふに壹億五千萬圓しか使ひ得る金はないのであります。然るに今述べました如く、二億のスペキュレーションが日本に来てをれば、この金を爲替資金として使つて拂らうといふことは不可能であります。しかしながら、スペキュレーションで来た二億の金はこんなことかといへばニューヨークか或はロンドンの金が殖えてゐるさいふことでありませぬ。さういふ疑問が起らうと思ひますが、これが又かういふことになりませぬ。スペキュレーションのために今日二億の金が来て、明日金の解禁を見ますと、その金は直ぐ減つて行きませぬ。随つて二億の金を全部持つて行つてこれを爲替資金として使ひ得るのであります。日本は常に外國に於て金が足らぬのであります。従つて爲替相場は元に戻らないのであります。故にこの二億の金が半年か、一年の中に爲替資金に使つてなくなつてしまひませぬ。さうでありますから、スペキュレーションで来た金を使はなければ爲替相場が高くなるのであります。スペキュレーションで来た金を使はなければ爲替銀行は儲かりませぬから、輸入資金に使ひませぬ。使ひませぬから、なくなつてしまひませぬ。従つて今いふやうに半年か、一年の中になくなつてしまつて、今後金の解禁した場合はスペキュレーションに依つて来た二億の金はいふものはさうに拂ひつてしまつて日本の手には少しもないのであります。従つて金を拵えるには新しい方法を講じなければなりません。金を拵える方法は種種あるのですが、外國で金を借りる、イギリスの如く金を借りることは出来

るかさうかといふこと、出来やうと思ひませぬ。公債も社債でなくして一時的にイギリスの如く金を借りることは出来やうと思ひませぬ。日本で一番困ることは返すのに困ることあります。長期の金を借りれば結構であります。かういふ場合に長期の金を借りることは今日出来ないのであります。單に金を借りるさいふことは出来ませぬ。輸入超過で困つてゐる日本がさうして短期の金を借りて、それを返すことが出来るかといふこと、そこに非常な困難を感じるのであります。日本は地震がありまして非常な信用を落し、日本の外國にある有價證券は皆下がりました。今日までその信用が回復しませぬのみならず爲替相場が下つて、更らに信用を落し、その上再び公債を募るさいふことはなかなかよい條件をつけても出来難いのであります。しかしながら、それも金を溜める一つの方法であります。それは相成らぬさいふをつけてをります。金を借りれば利息を拂はねばならぬそれで日本の國際貸借關係を困難にするから、外國の金を借りることは相成らぬさいふをつけてをりますが、これは恐らく間違つた政策であらうと思ひませぬ。決して正しい政策ではなからうと思ひませぬ。今日世界的金融の状態からいひませぬ、日本に金が必要であるならば外國から借りても宜しい、日本に殖えた場合はそれを外國に持つて行くのも宜しい、足りないところへ有り過ぎるところから持つてくるさいふことは今日の世界共通の經濟界、金融界であります。それを外國の金を借りて不可さいふで禁止命令

を出すさいふことは金の性質に反したことであらうと思つてをります。それでこれも金を溜める一つの方法であります。しかしながら、ここに最も考へねばならぬことは、この頃日本の爲替のことに就てスウェーデンのカツセルさいふ學者が非常に簡單なものであります。それが論じてをりますが、爲替相場が上つて、日本の金の對外的價值が上つても日本の物價が下がらなければ爲替相場の維持が出来ぬさいふことをいつてをります。さうして地震前に日本の對外的爲替相場がよくないのであるが、地震後下つたことが却つて對内的價值と對外的價值とを一致させるやうになつた、あれが本當だといつてをりますが、これは私は大體理屈はその通りであると思ひませぬ。爲替相場が高くなつても内地の物價が高ければ必ず輸入が殖えてそして通貨が縮少するものでありますから、物價が下がつて始めて一致するのであります。大體に於て先生のいふ通りであると思ふのであります。さうでありますから、ここで吾等は考へねばならぬことは日本の通貨さいふものが多いか少いかか。日本の物價は通貨が多いために非常に高いのではないか。今日の物價では又外國貿易のバランスを得ることは出来ませぬ。日本の物價が高ければ輸入超過は已むを得ませぬ。元來日本の通貨さいふものはこれまで國民の力によつて多いのか少いかといふことを驗したことは一度もないのでありませぬ。

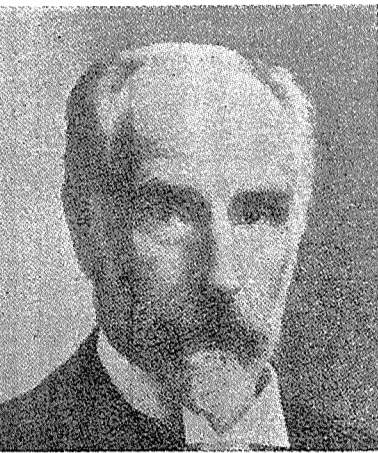
す。實際に於て幾らの数があるのか、大正六年以來金の輸出を禁じてしまつて溜めるだけ溜めて一遍も出さないのでありますから、これが多いか、少いかといふことは國民の力によつて驗したことは更らにないのであります。通貨が多いさいふこともあるかも知れぬ。又通貨が多かるべきこと私共も思ふのであります。さうすれば日本に現にある正貨準備を多少持つてをつて、そして外國に爲替資金を溜めてをくさいふことも一案であります。それはさうなるかといひませぬ、金を積むことは金の禁止と同じでないかといはれるかも知れませぬが、金を解禁してそれがために日本の金を外國に持つて行くよりも政府が整理によつて出来るだけの高さを保つてをつて、現在日本政府が自分で金貨をもつてなすつある如く持つてをつたならば相當の爲替資金も出来、内地の物價調節も出来はしないか、かう考へるのであります。對外的價值と對内的價值が一致するのではないか、かう考へるのであります。即ち對内的價值さいふものをそのままにして置いて爲替ばかり直さうさいふことはイギリスの石炭の如く、日本の生糸の如く生産費を下けずして賣り値だけ下げねばならない結果になりますから、さういふことを一考案しなければならぬ考へるのであります。大分時間も経ちましたし、疲れてをりますから、これで一通りザット申上げたことと思ひますから、この位で止めることにいたします。

(完)

エッチウアース教授の 略傳及び學說

ジョン・メーナー・ド・ケーネズ

全世界を通じて本協會 (Royal Economic Society) 會員は、エッチウアース教授がその第八十一回の誕生日を迎へて間もない一九二六年二月十三日、肺炎を病み僅數日のうちに忽焉として逝いたこの報に接し衷心より痛惜の情に堪えないであらう。



Francis Edgeworth

故エッチウアース教授の遺筆

エッチウアース教授は、その最後の日まで、木誌 (The Economic Journal) の發行に携はつて居り、彼の編輯友達は、その事務に關する同教授の最後の書信を、彼の訃報が發表せられた後に受取つた程であつた。

エッチウアースは Economic Journal の最初の編輯者であつてそれを計畫し、それを型造つた人である。彼はその編輯者、編輯會議の Chairman 及び一八九一年三月の初號より、一九二六年三月の本號に到るまでの長年月間、連帶編輯者として終始その責に任じてゐた。エッチウアースの本誌に盡瘁した熱心な勤勞の大きさを、彼の死に依り吾人が受けた償ひ得べからざる損失を、今此の稿を認めつつある彼の編輯友達が感得しうる程度に、洞察し得る人は誠に稀であらう。

フランシス・イシド・エッチウアース (Francis Ysidro Edgeworth) は、或る名家の男系に於いては最後の一人である——この事は彼の氣に入りの平均の法則 (Law of Average) を證左するものである、即ち彼の玄祖父のフランシス・エッチウアース (Protestant Frank) は相繼いで數人の妻を娶り、祖父の風變りな、そして有名なりチャード・ロヴェル・エッチウアース (Richard Lovell Edgeworth) は四人の妻を娶り、二十一人の子女を設けた。それ等の子女の中で、七人の男兒と八人の女兒とが

生残つて彼に血を傳えた。エフ・ワイ・エッチウアース自身は、その六人目の男兒の第五人目の子息であつた。然しエッチウアース家に於いて他の總ての男子が誰れも男の子を遺さずして没したために、彼は Edgeworthstown, Co. Longford, の同家の家督を相續した。エッチウアース家の名前は以前エッチウアースと呼ばれてゐた County of Middlesex のエッチウアース (Edgeware) から來たものであるが、同家はエリザベス女皇の治世に、その祖先が興したものである。彼の家督相續後、

彼は一家の記録を蒐集することに興味を持つてゐた。そしてエッチウアースタウンの同家を、既に結婚してゐた彼の姪のモンターグ夫人にその良人との管理の下に、いくらか往時の慣例に復さうと努めた。近年彼は毎夏アイランドを訪れてゐたが、エッチウアースタウンには住まなかつた。然し彼は、その祖先の家に於ける A happy "Old Age" (さりながら、その樂しき「晩年」が到來したと彼が思ひ得るの日は果して何時來るのであらうか、余は知らない。) を喜び待つてゐるのだと言つてゐた。

エッチウアースは殆んど一世紀以前から、名士を輩出した名家の血を引いてゐる。即ち彼は、一七六七年に生れて既に一八世紀に於いて有名であつた小説家のマリア、エッチウアースの甥であり、一八四七年に没した詩人、トーマス・ロヴェル、ベッドウスの最初の従弟である。サー・ウォルター・スコット (Sir Walter Scott) は彼の Waverley の初版刊行に際し、一冊をエッチウアースの叔母、即ちマリア・エッチウアースに呈した。スコットはその最後の章(後には序文の中)に、該小説は彼女のアイランド風の描寫で、このことは彼に同様な試みるをスコットランド風で爲さしむる最初の慫慂となつたと書いた。ジェーン・オーステン (Jane Austen) は Emma の初版刊行にあたり一部彼女に贈つた。マコーレイは、その著 History 中に於いて、彼女に關して論じてゐるが、それを彼女に贈つた。彼女は晩年 Gatcombe Park に、リカード (Ricardo) を訪問した事があつた。

エフ・ワイ・エッチウアースの父、フランシス・ビューフォート・エッチウアース (Francis Beaufort Edgeworth) は一八〇九年に生れ、チャーターハウス (Charterhouse) 及びケンブリッジで教育を受けた。ケンブリッジでは、スターリングの部に於いて卓越せる部員であつたが、トーマス・カーライルの公平無私なる批評に依り、彼の名は不朽となつた。カーライルは、その Life of John Sterling の中に約三頁を、彼の爲に割いてゐる。(Life of John Sterling by Thomas Carlyle, Part II. Chap. IV.) 「フランクは短身、清楚な男であつた」カーライルは書いてゐる。「すべしべした、四角な無色の顔——彼の父親の寫眞に似て——に、好奇的な、冷たい微笑を湛えてゐる小さな碧い瞳を持つてゐた。彼の聲は暖れた甲高い聲で、その中がみかみした執拗な、或はそれと同様な諷刺的語調を湛えてゐた。彼は、沈着な、ドグマティックな、思索的な、嚴正な、さうしてさうさう言へば調子の好くない男であつた。

彼はフラトリーに通曉し、カントにも亦精しかつた。即ち彼は哲學書、文學書共に良く讀み、主義を把持しては居なかつたけれども、主義のプラトリーの、若しくはカント的な形象 (Ghosts) を懐抱してゐた。冷やかな彼の双眸の煌めきの中や、あの甲高い、頑固して物に動せずと言つた底の聲韻の中に混えられてゐる彼の王權主義的、因襲的——風格の總てを暫らく言はずして、彼自身より冷やかに黙殺し去るならば、彼は徹頭徹尾 眞摯で勤勉な、有徳の人であつた。」(Reminiscences) の中に一項目を割いて、

フランク・エッチウアースに就いて述べてゐる。Reverend Thomas Mozley は、カーライルの言つたやうにこの「人の良き小男のフランク」を言ふことを確認してゐないで「余の耳は猶ほフランク・エッチウアースの聲音に雅味があり、彼の態度に、その語調に優美なもの含まれてゐるのを感じる。フランク・エッチウアースは争闘的な遣り方に依つて破端を示してゐる。余は彼が幼時から争闘的性格に富んでゐた事を附言し得る。しかし、彼は最も同情の念の深い、献身的な人であつた。」と述べてゐる。

次に示すスターリング自身の記述に依つて、人人は、その子供が受け継いだ性質に就いて大體を豫測する事が出来るであらう。

「エッチウアースは單なる意志的生涯を送つた者である。私には思はれない。彼が Wissen から Wesen への進化の肝要さに就いて知らなかつたこと（それを余は知つてゐるのであるが）は、その證明である。

余は彼が英國にやつて來た事を非常に欣ばしく思ふ。伊太利では、多分彼は單なる考究、及び認識の力に異なつた、存在の真相への直覺の多數を獲得することは出来なかつたであらう。然して、勿論、これなくして彼は單なる直観（熔岩に蔽はれた、或は海底に、沈下してしまつた土地の地券の一箱のやうな、貧弱な所有でしか有り得ないところの）以上にいくばくも通達し得る事は出来ない。」

然し、スターリングの友人は、フランシス・イシドロ・エッチウアースの人を爲りに影響した唯一の人であつた。フランシス・ヒューフォート・エッチウアースは倫敦に來たとき、

或るロマンチックな事情に依つて、若いスペイン婦人と結婚した。

エッチウアースの母は、オーザ・フロレンチナ・フールスと言ふスペイン婦人であつた。父のフランク・エッチウアースが彼の甥のテイエル・ベッドウスと共に、獨逸へ哲學の研究に行く途上で、倫敦に滞在し、英國博物館で書物を拂獵してゐた時、偶然にもカタロニアから亡命してゐた政客の娘の、當時十六歳のフールス嬢と懇意になつて、僅僅三週間の内に結婚し、彼女を伴つてフールスに歸り、其處で數年間同棲した。エフ・ワイ・エッチウアースは非常に語學に堪能で、フランス、ドイツ、スペイン、及びイタリア等の各國語を讀んだ。そして彼のアイルランド、スペイン、及びフランスの混血兒であることは、彼の心に著しく國際的な親和性を加ふる事に與つて力があつたやうである。

エッチウアースの生涯の外面的經歷を次に述べる。

彼は、彼の父フランク・エッチウアースが、フールスから歸つて、學校經營に失敗した後、同家の財産を管理する爲に定住したころの、エッチウアースタウン、ハウスで、一八四五年二月八日に孤孤の聲を擧げた。彼の父は、彼の二歳の時没した。彼は十七歳のとき、ダブリンのトリニティー、コリッチ (Trinity College, Dublin) に入學する迄、エッチウアースタウンに連れ行かれて家庭教師に就いて學ばせられた。彼の記憶力、頭腦の明晰さは、その當時既に著しかった。

極く最近のことであるが、彼はオックスフォードに住んでゐる従姉妹たち (Mrs. A. G. Butler) の子 Miss C. V. Butler) に、

彼が會つて若かりし頃學んだ詩文を、如何によく今に到るまで記憶してゐるかを談し、ミルトン、ポープ、ヴァーヅル、及びホーマーの全巻に涉つて、容易に彼の記憶に甦り來る言つたことがあつた。

彼の晩年には、彼は、總ての機會に、あらゆる文の前後に、古典から傳説等を抜いて、極めて輕妙に引用する事の出来る極めて少數の生存者の中の一人であつた。

彼はマグダレン、ホール給費生としてオックスフォードに入學し、そのより Balliol に進み、文學科 (Lit. Hum.) の第一位を得た。

彼がオックスフォードの最上級で課せられた「Viva」(口頭試験)に就いて一つの挿話がある。或る難問を課せられて彼は「簡單に御答へしませうか、それも長く申上げませうか」と尋ねた。そして約三十分をわたつて彼は答へた。このことが當然第二位にされるべきところを第一位に變更せしめたのだと言はれてゐる。彼は一八七七年にインナー、テンブルの裁判所に招聘されて、數年間を倫敦に暮したが、アイルランドの貧乏族團の末子の末子であつた彼は、彼の智的天稟、彼の希望によつて彼がその最後の方針を發見するまでは、極めて貧窮の生活を送つてゐた。

彼は倫敦の Kings College の論理學の講師となり、後ち經濟學の Tooke 講座の教授になつた。一八九一年に彼は Thorold Rogers の跡を襲いでオックスフォードの經濟學のドラムモンド講座 (Drummond) 教授となり、Fellow of All Souls に選拔された。それは實に彼の終生のホームミナつたのである。彼

は一九二二年に名譽教授となり、オックスフォードの教職から退いた。彼は一八八九年に British Association の經濟部長となり、一九二二年に再度その職に就いた。彼は Royal Statistical Society の前會長であり、英國學士院の會員であつた。

Balliol では、エッチウアースは Jowett の愛弟子であつた。Jowett は常に經濟學に興味を感じる事深く、時折はその講義をしてゐた。エッチウアースが、經濟學に對する最初の感激を得たのは、斯うした Jowett からであつたかもしれない。

然し、彼の初期の經濟思想に、最も重大な影響を與へたのは、彼が倫敦で知己になつた、ジェボンズ (Jevons) であつた。余は思ふ。彼の倫敦の Hampstead の住居にジェボンズの居室は極く近かつた。彼が無上の敬意を捧げた、かのマーシャルとの交際は、その少時後に始まつたのである。

一八八一年の The Academy 誌上に「マーシャルはエッチウアースの Mathematical Psychics の評論を發表した。それは實にマーシャルが、生涯に書いた唯一の評論の内の一つであつて、他の一つはジェボンズの Theory of Political Economy である。この評論は二人を懇意に導いた媒介であつた。さうして、この交際は後に到つて、生涯にわたる長い間の、個人的且つ學術的友情にまで深められた。

エッチウアースとマーシャルの間は、語が合はなかつたので、マーシャル夫人は、その主人二人でゐた事は稀ではあつたが、エッチウアースのケンブリッジ訪問に就いては楽しい追憶を多く持つてゐる。

彼の著作より判断するに、彼は經濟學に於いて、マーシャルが彼以前に到達したと同位にまで、數學倫理學を通じて到達した。

然し類似點はこの點に止まつてゐる、マーシャルの興味は智的及倫理的であり、エッチウァーの興味は智的且つ審美的であつた。エッチウァーは智的及審美的興味を建てやうとし、マーシャルは實驗的、道德的重要の準則を建てやうとした。

専門的教育、及び明るさ、並に立論の正鵠率に就いて言へば、數理學的範圍に於いては、マーシャルは彼より遙かに勝れてゐた。マーシャルは第二番目の優等生であつたし、エッチウァーは文學科 (Literis Humanioribus) の卒業生であつた。

然も、エッチウァーは、彼の數理的方便の取扱ひに於いて無細工で不器用ではあつたが、その獨創力に於いて、その完成に於いて、興味的天性的遍執に於いて、より偉大なる數學者たりし事を失はない。

余は、過去四十年間に、彼が Mathematical Psychics と命名せる、精緻にして廣汎なる社會科學への准數學的方便の應用に於いて、エッチウァーは世界に於ける最も著名にして、最も蘊蓄を有する代表者であつたことに就いては、何人も論議を挟むの餘地なしに信する。

エッチウァーの全著述——その中の大部分は本誌に寄稿されたものであるが——を一表に纏めあげる事は、中中あなごり難い仕事である。

その最初のもの、余もよく知つてゐるが、かの New and Old Methods of Ethics で

あつて、彼の三十二歳の時、即ち一八七七年にオックスフォードの Parker & Co から發行された紙綴ひの九十二頁の書物であつた。それは功利説の検討中に生じた分量的問題の諸論を収録したもので、それは Sidgwick の Methods of Ethics 及び Barrat の一八七七年の "Mind" 誌に寄せた "Sidgwick の批評" の註解の形に於いてなされたものであつた。エッチウァーの文態の奇異、彼の章句の華麗、前後關係の曖昧、彼の企圖の要領を得ざること、彼の方向の不安定、彼の鄭重さ、彼の用心深さ、彼の如才なさ、彼の榮智、彼の纖細、彼の學識、彼の遠慮、等等總てその中に生長しきつて居る。

ギリシヤ語の引用が微分學の後に續いて、氣まぐれな讀者は、それがホーマーの詩句の行であるか、積分學の課程の中にある數學的抽出であるかを判別する人は極めて稀である。エッチウァーのこの著述の結句は、彼の生涯の終りに持つて來てもあてはまるものであつた。

「倫理學の大いなる體系が、或る澄徹なる支配頂點に向つて、或る大家の導きの下に、各方面より上昇して、既に行つて終つたところへそこへ、この論をその方向に導く一人の競争者が、異りたる歩調を以て (Non passibus aequis) 及び一つの正路を外れたる徑程より現れる。

一の正路を外れたる路、さうして前節に余が思ひついたまゝに叙述したところの、未踏の方法への接近と言ふことは、少くも冀求するところのもの、數學的取扱が本然の實體的倫理學 (Prologica & von der Vernunft) への助成たり

得ることを豫判した程度に於いてである。」其他 "Mathematical Psychics; An Essay on the Application of Mathematics to the Moral Sciences." と言ふ小冊子(百五十頁)が一八八一年に刊行された。これはエッチウァーの經濟學への最初の貢獻であつて、彼の一生に爲したる最良の著述の幾分を包含してゐる。

彼の歿する約一ヶ月前頃、その書の或部分を再印刷したいと言ふ希望を懷抱してゐて、その事を數回余に量つた。彼が、彼の希望してゐた、しかしそのことに就いて性格的な細心さがある躊躇を感じてゐたところの Clarendon Press に刊行の交渉を始める迄に、そのことが進行してゐたか、或は、彼が保存したいと思つた章句に精密に印しをつけてゐたか、余は知らない。

その倫理學の書物は、巧利説へ數理的方便を應用せんことを企てられたものである。Mathematical Psychics の中に、エッチウァーは、彼の「感覺、喜悅、及苦痛の計算法」の取扱の、或程度の助成を實行した。その論文は「それぞれ原理及び實用、根及び果、社會學への數學的應用性及び應用」等の如く二個の部分により成り立つてゐる。

第一の部分は、甚だ簡單であるが、「數字的材料無しに數學的推理、若しくは論究の可能性を解説せんを試みた」もので、その書かれた當時に於いて、著しき創意、重要さを見せた題目であつたのである。彼曰く、

「吾人は生命の貴重さを數ふる事能はず、吾人は限りなき愛の海洋に浮ぶ微笑を指折る事を得ず、されど吾人はそれを觀察する事の出來得べきを知る。即ち、より大なりと言ひ、より小なりを呼び、歡喜の夥多、幸福の堆積を名づく。而して只それにて足る」云々。

第二の部分は、エッチウァーの數理經濟學に於ける、多數の原理及び、特に自由市場に於ける取引、及びその起り得べき不確定率の取扱よりなり、彼の有名な Contract-Curves が最初に現はれたのは實に此の中である。余は初期のこれ等の二種の著述に就いて、不均合なまでに細説した。何となればそれ等の中、殊に Mathematical Psychics の中に、エッチウァーの精神及藝術の全風韻と特異性が餘すことなく展開されてゐるからである。後者は非常に風變りの書物で嘲笑を免れない。其後の著述には、余の見るところを以てすればエッチウァーは、彼の天性を全部開放して、その中に表はしたことはないやうである。

彼は、彼がその奧妙に達してゐたところの、詩と術學、科學と藝術、智識と學識等の異様と言つて良い迄の魅惑的な結合の下俗なる註解を少し恐れた。さうして彼は、失敗したけれども、彼の天稟の態度の部分的陰蔽のヴェールを除かんを努めた。然し乍ら、それは簡單に、彼がそれ等をもつて彼の智的欺瞞に貢獻せしめたところの不明瞭、及引喩的、且つ半ば辨解的態度を高むるに役立つたのみであつた。

男女勞銀の不公平の問題は終生彼に興味を感じしめたもので、一九二二年に British Association の F. Section での、彼の會長就任演説の題目であつた。(未完) — 霜村譯 —

學 內 報

住友合資會社の建物寄贈

這般大阪住友合資會社から從來同社の總事務所に當てられた市内東區北濱五丁目の建物(木造二階建延約九百坪)一切を本學に寄贈せられた。ここに深く同社の御厚志を謝する次第である。尙ほ右建物は近くこれを千里山に移し大學本部に當てる筈である。

井上準之助氏の來講

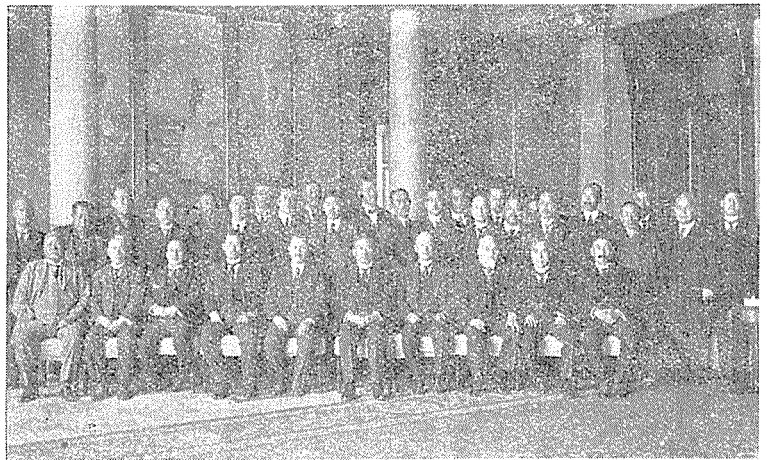
去月十五日午後二時から、會て日本銀行總裁、大藏大臣等の要職に在り、現に貴族院議員である井上準之助氏を本學千里山學舎に迎へて一場の講演を請ふた。

氏は當日午前十一時半梅田驛着列車にて京都より來阪、直に中之島中央公會堂に於ける本學の同氏歡迎晝餐會に臨まる。右歡迎會には兼ねて都下各方面の名士を招じ、就任以來適當なる時を得なかつた本學松本學長がこれら諸名士と舊交を温め、或は新誼を結ぶの機會にこれを當てた。

午後二時氏は本學關係者一同の歡迎裡に千里山學舎に着直ちに講演會場に入り、松本學長の紹介の下に我國對外爲替の現状及び正金輸出解禁問題に關し、別項掲載の通り、約二時間互る講演を試みられた。

後藤新平氏の來講

去月二十八日午前十時子爵後藤新平氏を本學千里山學舎に迎へ一場の講演を請ふた。當日



井上準之助氏歡迎會

氏は新京阪電鐵株式會社特別仕立の電車を大學前に下車、襍鏢たる老軀を徒歩にて本學に運ばれ、定刻に先つこ三少時にして來着、小憩の後講演會場に入り、本學宮島事務理事紹介の下に、「自治に就て」なる題下に約一時間半に互る講演を試み、正午頃辭去された。

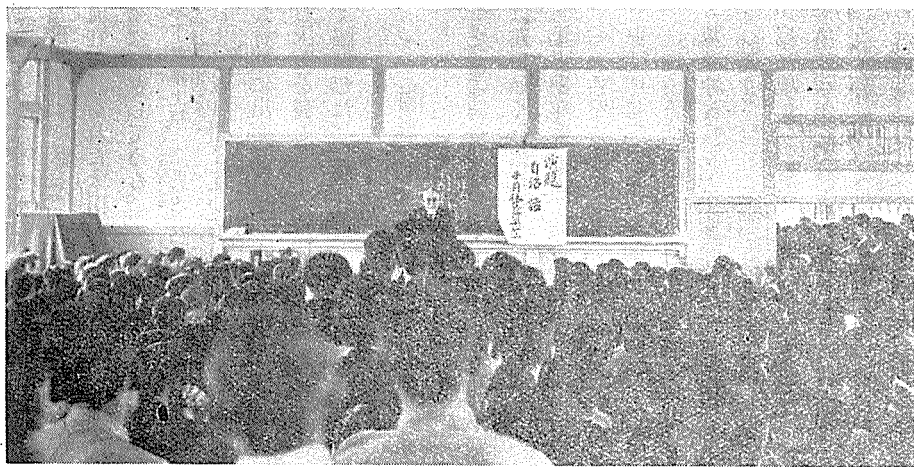
大學令に依る本學創立記念日

本月五日は大學令に依る本學創立記念日に相當するを以て、千里山、福島兩學舎とも授業を休んでこれを祝した。

本學專門部商業學科 卒業者に實業學校教 員無試験檢定認許

大正十三年十二月十二日付を以て本學專門部商業學科卒業者に對し、商事要項、簿記の學科日に就き無試験檢定認許ありたき旨文部當局に申請中のところ、這般大正十四年三月以

後藤新平氏の講演



後の卒業者にして成績優良なる者に限り、これを認許する旨の達しがあつた。

學部並大學豫科本學 年度學級委員任命

去月三十日附を以て本學學部並に大學豫科本學年度學級委員を左の如く任命した。

法文學部

- 法律學科第三學年 田端準雄、堀川金藏
- 同 第二學年 八澤俱好、宮田平三
- 同 第一學年 本田末一、北原元茂

經濟學部

- 經濟學科第三學年 松谷哲藏、山口常一
- 商業學科第三學年 中野勇次郎、國松左太夫
- 經濟學科第二學年 栗並稔、増子一巳
- 商業學科第二學年 杉村真太郎、伊藤祐一
- 經濟學科第一學年 綾部研三、中井三之助
- 商業學科第一學年 入江堅壽、川邊鹿之進

大學豫科

- 第三學年 A組 杉竹清治郎、島田信一
- 同 B組 山口多賀藏、廣瀨義雄
- 同 C組 西崎作太郎、寺下勇
- 第二學年 A組 西田竹雄、奥田浩
- 同 B組 沖中秀直、中辻淳
- 同 C組 青野昌平、福原菊次郎
- 同 D組 恩地政治、萩原一
- 第一學年 A組 木内林太郎、三木八郎
- 同 B組 武氏英二、藤野春三
- 同 C組 中平信行、前川熊雄
- 同 D組 伊集院賢、祐成斐一
- 同 E組 日下五一、伊藤徳次郎
- 同 F組 妹尾平八郎、山口清

千里山學舎に於 ける地圖學講義

本學千里山學舎では學部、豫科を通じて軍事

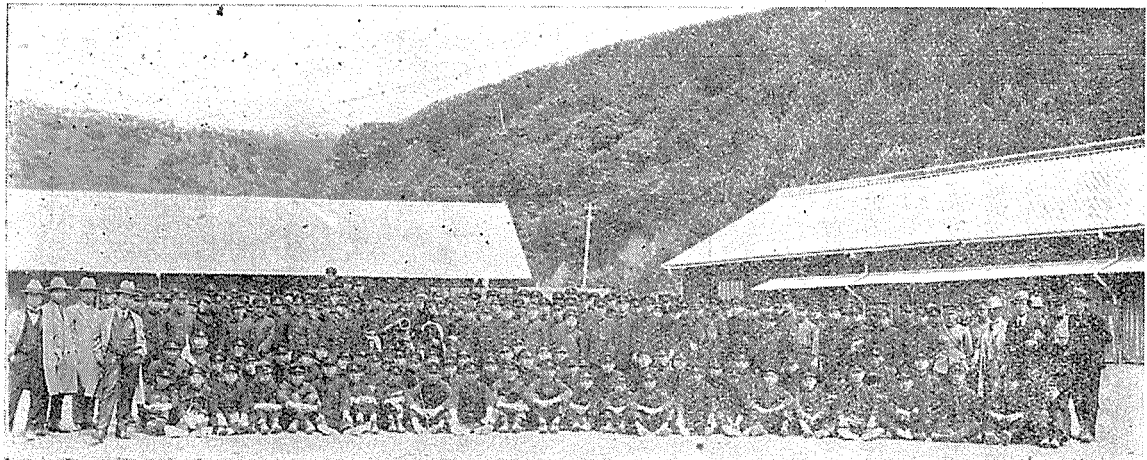
教官田中少佐の地圖學に關する講義が開始された。殊に豫科では地理科と共同して組織的に行はれてゐる。因に田中少佐は夙に參謀本部陸地測量部に在つて測量事業に従事せる斯道の精通者である。尙ほ同氏の修正測量にかゝる「千里山地圖」(關西大學附近一萬分一圖)が近く出版せらるる筈である。

附屬第二商業學校彙報

風紀係設置 五月十一日職員會議の結果、以後學校の内外に於ける風紀の向上を期する爲め今回左の通り風紀係を置くことになつた。
部長 松本生徒監、主任 岡田教諭、神保教諭

生徒委員 栗島秀一(三年A組)、溝淵長藏(三年A組)、橋本研一(三年B組)、青山勝(三年B組)

第一・二學年修學旅行 第一・二學年生徒約二百名は山崎、岡田、瀧口、小俣、神保、中村、福西の各教諭並びに松本生徒監引率の下に去る五月十六日(日曜日)和歌山地方へ修學旅行を試みた。當日早朝難波驛に集合した一行は午前七時南海電車にて同驛を發し八時深山驛下車、約三里の道を海岸に沿ふて茅海の碧波と指顧の中に見ゆる淡路島の景色を賞しつつ十一時半深山重砲兵聯隊に着、同聯隊の手厚き接待を受けて中食を済まし、同隊所屬の大田中尉並びに一年志願兵として在營中の休職岸教諭の教導にて重砲操作、營内諸設備等を隅なく見學、午後二時過ぎ同隊を辭し、加太驛より輕便鐵道にて和歌山に至る。三時半新和歌の浦に到着し少時解散して各自海岸を散策、午後六時四十分再び和歌山驛に集合



深山重砲兵隊營庭に於ける第二商業學校生徒一同

直通列車にて大阪に向ひ午後八時難波驛着無事解散した。因に當日深山聯隊に於いて特に便宜を計られた大田中尉に對し同校では厚く謝意を表してゐる。
木下主事上京 去る五月二十四日から二十九日まで五日間に互つて開かれた全國商業學校長會議に出席する爲め木下主事は五月二十二日大阪を發して上京、同三十一日會議を終へて歸校した。

關西甲種商業學校彙報

春季修學旅行舉行 大正十五年度春季修學旅行は左の如く行はれた。

第五學年(四泊) 鎌倉、東京、日光、靜岡、名古屋方面

第四學年(二泊) 岩國、嚴島、廣島、吳、岡山方面

第三學年(一泊) 宮津、天の橋立、舞鶴方面

第二學年(終日) 大津、石山方面

第一學年(終日) 明石、須磨方面
こども教育博覽會へ出品。大阪朝報社主催こども教育博覽會へ左の通りトロフ井を出品した。

一、大阪中等學校野球リーグ戰優勝カップ
一、近畿中等學校庭球聯盟リーグ戰優勝カップ。

一、同優勝旗。
一、關西ジュニヤール少年優勝野球大會優勝カップ。
一、市工主催大阪中等學校八百メートルリレー優勝旗。

校友の面影

▲福岡縣戶畑警察署長 下井信三氏
大正四年度法律學科出身

曩に書信をもつて氏の近況其他に就いて御聞きしたが、氏は快よく應諾され、御多忙な中から長文の返信を送られた。左にその全文を掲げて氏の風貌の一端を偲ぶよすがとする。

私は昨年の十一月に福岡縣戶畑警察署長を拜命したのでありますが、それまでは數年間、支那の方に派遣せられて居りました關係上露支兩國の國境方面の事情、並に次から次へ走馬燈の如く變つて行く支那の政情に就いて、少からず興味を持つて見て居ります。

履歷は——愛媛縣大洲の生れですが隨分苦心致しました。

大阪府の警察に奉職中、大正四年に關西大學の専門部法律科を卒業しましてから警視廳警部補になりましたが友人の辯護士富永竹夫君や安岡仲稔君其他の成功に刺激せられて、大正八年頃から私も試験を受けて見る考へになり、勉強を始めましたが、何様學費は無いらし、妻子はあるし、専門に勉強する事は許しませんのみならず、當時は警視廳官房特別高等課勞働係と言ふ勞働問題の方の係りに勤務して居りましたが、其頃は勞働問題の喧しい時で、財界の反動から諸方面に勞働爭議が頻發して事務の處理に追はれて思ふままに勉強は出来ず、實に閉口しましたが幸に大正十一年に辯護士試験に合格する事を得ました。

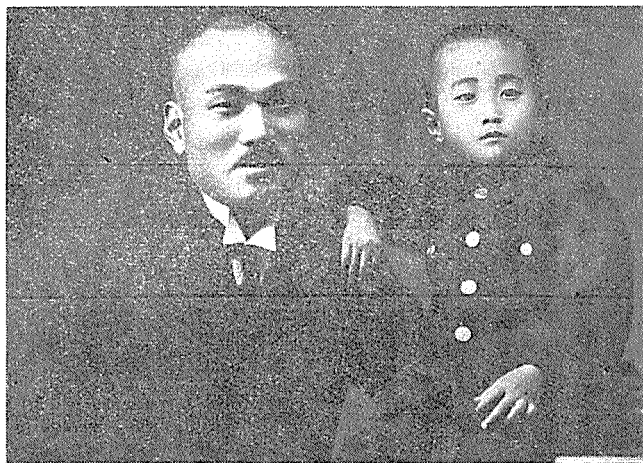
試験に合格して間もなく支那に行きましたのですから開業もせず、一つは警察の仕事に私

は趣味を持つて居るものですから、支那から歸つて來ても警察官をして満足して居ります主義としては、私は努力主義です。言葉を変へれば實質主義でも謂ひませう。何でも一生懸命に努力して見るのであります。

人はよく人生觀に就いて宿命説を唱へますが人間は宿命ばかりではない、努力も宿命の二つが人生を支配するものではないか考へます。今日の世の中では、如何なる地位のある人の家に生れても其人が努力をして自分を磨かなかつたら、社會から信用もせられねば、實際の地位も得られるものではないと思ひます。單に學校教育のみ受けて來ても、無意識に出て來たのでは駄目です。學校の教育も社會上の經驗が伴はなければ完全な人間ではないと思ひます。

趣味としては狩獵が好きです、獵の趣味も言ふても素人の考へる如きやさしいものではないりません。犬を連れて山に行く時には何事も言へぬ愉快な氣持のするものです。秋の山野の狩獵の如きは世の中の事を忘れてしまひます。

獵の上手下手は要するに山を見るの明ありや否やにあるのですが、風、雨、温度、草木の生へ方等、種々な方面にも注意する事が必要



下井信三氏(同照令息三郎君—當八歳)

です。水鳥なれば別ですが山獵になるに、主人の心も犬の心も一致せねば快感は得られませぬ。銃に馴れる事も亦必要な條件の一つです、私は支那に居る時獵期の制限が無いのですから、土曜日の晩から日曜日にかけて、盛んに行きましたが、日本は遠く雉なごの澤山居る所へ行きます、一日に五六十疋は見ます

秋の鳴時になるに平原の沼や池のある所には朝も晩方數千羽の鴨が群れて近く迄來ます。それを打落すのも面白かつたです。落ちた獲物を犬が咬へて來る時は何んとも言へぬものです。

友人に遠方迄行つて露西亞人の家や、一晚拾錢位の支那の宿屋なごに泊り、寒い頃には寒さの爲寝られなかつたこともありました。こんな

ことをするので愉快なのであります。今でも犬を飼ふて居りますが、犬の上等なものになりませぬ、何んとも言へぬ主人に忠實なものです。最近の感想としては、別段ありませんが、世界の風が遠慮なしに日本にも山の奥まで吹いて來て、次から次へ取入れる事が多い爲か、この頃の人は一般に總ての上に流行を追ひ質實な氣風に乏しいと思ひます。

日常の仕事をするにも形式的で地味な點が薄いやうで、個人の仕事のみならず、團體の仕事に一層この風が及びまして、只見榮えのする仕事をする風がありますけれども、或程度までは引締める事が、今日の世の中にも無いさいかぬと思ひます。

校友彙報

校友會大連支部觀櫻會

本學校校友會大連支部に於いては去る四月二十五日、大連郊外老虎灘の繡月園に於いて有志の觀櫻會を開催した。來り會する者十餘名、大連在任校友の殆ど凡てを盡して回懷談に花を咲かせ深更に及んで散會した。(金森氏報)

三九會例會

明治三十九年本學出身者より成る三九會では去る五月十九日夕刻から、北區堂島堂島ビルディング内清交社に於いて春季例會を催した。出席者左の通りで頗る盛會であつた。因に次回の幹事には織田九郎、堤新吉、中村虎次郎、村井治三郎、植村久太郎、野村吉藏、藥師寺一の七氏が選ばれ就任した。(野村幹事報)

出席者 馬場太熊、布井良太郎、織田九郎、高村久之助、堤新吉、中村虎次郎、村井治三郎、植村久太郎、野村吉藏、藤下吟次郎、古田吉五郎、兒玉善吉、木村稔、行森啓三郎、水野醇三、平尾藤平、平岡啓道、森英之助、以上諸氏 (イロハ順)

校友會大阪支部春季懇親會

本學校校友會大阪支部春季懇親會は去月二十三

日堺大濱茅海樓に於いて開かれた。此の日朝來雲低く垂れて、雨を思はせるものが多かつたが、幸に事なく、日中は稀に見る好晴となり一日の行程を愉快に運ばしめた。

午前九時阪堺線惠美須停留所に一同集合、堺市妙國寺前下車、妙國寺に詣で、蘇鐵を觀賞し、寶珠院に、土佐十一士の墓をさぶらぶ。維新の頃、國是未だ定まらず、國威六合に布かれざるの時、外夷の詰問に答ふるため、一身を犠牲に供して、いさぎよく割腹し、窮路を拓いて家國の礎石となつた義士の名は、半世紀の雨露にさらされて、世人に忘れられ、墓邊はうたた寂滅の感が深かつた。義士もさより名の爲に身を塵に埋めんとしたのではあるまいが、その辭世の詩文に「名を千歳に遺さむ」と言ふ意味を歌つたのを見るに、今更に物の哀れを覺えるのであつた。

そこを辭して、御陵前まで電車にて行き、南宗寺に詣で、利休の茶室を見、寶物等を參觀して、仁徳天皇御陵にむかふ。十二時半仁徳帝陵に詣ず。陵墓員の許可を得て、その先導にて一同内苑に入り遙拜す。御陵前の休憩所にて辨當を喫し、堺市に歸る。それより水族館見物をなし、各自自由行動をこり、午後四時、大濱茅海樓に集る。砂川支部長の挨拶、内藤幹事の學校近況報告あり、砂川支部長はこの機會を利用して、曩に本學に建築物寄贈ありたる住友家に、本會の決議によりて、感謝状を送るのこころをはかりたるに、萬場一致にて之に賛成し、右を支部長に一任した。是より、宴に移り、會員各自の自己紹介ありて、席に侍る美妓の斡旋の下に、各自、互に胸襟を開いて一夕の歡を盡した。因に同日出席會

員は左記の通りである。

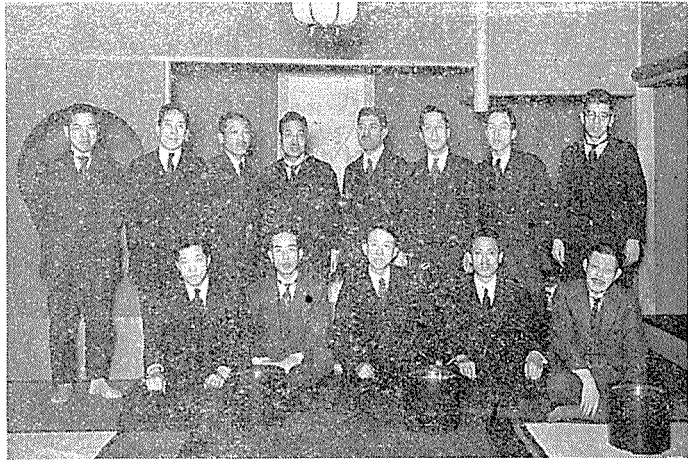
出席者 岩本政市、飯島善之助、萩原敏隆、橋本鹿藏、花井壽造、西本寛一、本田武藏、富田貞男、榎木浩巖、大鐘彦市、岡本義男、笈西大次郎、尾川隆二、小倉重太郎、和田相也、神田榮吉、桂忠雄、吉村種三、吉田音松、武田貞之助、武藤武市、武村英男、高松林之助、瀧本貢、田川七郎、辰巳經世、丹二良、田中藤作、辻村政治、中村鄧次郎、内藤正剛、中江濟、中川太郎、中務平吉、室石常秀、村松岩吉、村尾靜明、野村吉藏、野口政次郎、黒田莊次郎、藪下吟次郎、山田一太郎、増山忠次、松崎義盛、古田吉五郎、後閑宣太郎、小泉幸治、近藤友房、秋山卓爾、菊地金次郎、木戸卯之助、清滅五六郎、北川龜三郎、湯原龜三郎、湯原慶太郎、宮島綱男、宮本政藏、三野莞爾、道端常次郎、三島律夫、島田菊次郎、篠田栗夫、霜村盛卿、日向幸藏、森内梅吉、森川太郎、關豊馬、砂川雄峻、梓川茂三、楠野泰夫

校友会東京支部春季例会

五月二十八日午後五時から東京市日比谷公園松本樓に於いて本學校友會東京支部春季例会が開催せられた。當日は學長松本丞治氏を始め全國實業學校長會議の爲め上京中であつた垂水理事、木下幹事も出席した。定刻山本幹事開會の挨拶を述べ岡本幹事代つて會務の報告をなし終つて宴に移つた。デザート・コースに入つてから松本學長は立つて母校の近狀に就き詳細に報告するところあり、更に出席者各自の自己紹介、卓上演説等に歡を盡し午後九時和氣に満ちて散會した。因に當日の出席者左の通りであつた。(岡本幹事報)

出席者 松本學長、垂水理事、木下幹事、武田宣英、神田民作、後藤武夫、牧野充安、板橋鶴松、

北山義衛、山本仲次郎、本郷桂、原惣兵衛、加邊力、水卜孝正、水本信夫、小原是馨、柴武三、平野七郎、三谷龜太郎、山下龜五郎、岡本四郎九、以上諸氏(順序不同)



北川昇氏選米送別會記念撮影(前列中央北川氏)

關大經濟級友會發會

大正十四年度本學專門部經濟學科卒業生中、石川鶴藏、山岸源一郎、後藤新治、森永清晃、杉山志敏等の諸氏の發起の下に、關大經濟級友會なるものが組織せられ、その發會式兼第一回例會が、去月二十九日午後六時から市内心齋橋南詰カタヤ階上に於て催された。出席者は同年度卒業の有志十數名、尚ほ母校學報局を代表して講師辰巳經世氏も出席、各自母

校での想出を中心に歡談を交へ、午後十時散會した。

同會では、折悪しく雨天であつた故でもあるが、出席者が豫期に比して少かつたことを遺憾として、次回には成るべく多數の同窓諸氏の出席を切望してゐる。尚ほ同會を特に大正十四年度卒業者の會に限らず、縦に經濟學科の卒業生全體を網羅するものたらしめんことは當夜出席者總ての意嚮であり、従つてこの意味に於ける賛同協力他年度の同科出身者各位に希望してゐる。(杉山氏報)

出席者 石川鶴藏、今井忠勝、樫本信夫、後藤新治、杉山志敏、櫻見文博、中西恒三、花井幸治郎、松田與三郎、森永清晃、山岸源一郎、以上諸氏

北川校友渡米送別會

明治四十五年本學專門部經濟學科出身の北川昇氏は兼ねて日本銀行に奉職中であつたが、這般同銀行より海外派遣員として渡米することになり既に同地に向つて出發した。従來日本銀行から海外へ派遣せられることは將來同行に於いて極重要な地位に就くべき前提とも見られてゐるから、同氏今回の渡米は氏が將來の榮達を所期せしむるものであり、加ふるに本學卒業生であつて同行海外派遣に選ばれたのは氏を以て嚆矢とする。之等の意味に於いて特に同氏と親交ある校友等相寄り氏の出發に先つて一夕惜別の宴を張るに同時に氏の前途を祝福した。因に當日の出席者は次の通りであつた。

校友助靜

三矢暉吉氏(大一二商) 今般大阪府立堺中學校の教諭に就任さる。

横山浪五郎氏(大一二專經) 去る四月より靜岡縣袋井商業學校教諭に任ぜらる。

本宮久吉氏(大六法) 從來門司淺野セメント株式會社スレート部在勤中なりしが今回社命に依り、東京京橋區三十間堀日本スレート販賣株式會社に轉勤さる。

山崎敬義氏(大一二大法) 豫て高等文官試験及辯護士試験に登第せる氏は、今回司法官として大阪地方裁判所に勤務さる事となつた。

奥田正雄氏(大一二商) 今般神戸にて奥田會計事務所を開き一般會計事務の依頼に應ずる由。

校友住所移動

田中仲吾郎(大一二法) 朝鮮元山府陽地洞三〇有住 奠(大一二經) 兵庫縣西宮驛前みどり藥房内

三木盛男(大一二大商) 神戸市中山手七ノ四九、三葉銀行住宅

大久保鐘造(大一二商) 奈良市與子守町四番地妙法寺内

丹羽英夫(大一二大法) 大阪府港區鶴町三丁目四區廿二號妹尾方

中上正雄(大一二商) 大阪府西成區玉山町二四一番地

下部嘉一(大一二專法) 東京市牛込區東橫町一五加藤まつ方

森本武(大一二商) 神戸市兵庫小河通六丁目二ノ四八

濱崎多松(大一二商) 門司市新川町三丁目六九
五三正商會

松本兼仁(大一二專商) 大阪市天王寺區大道五ノ
四五

山本忠亮(大一二專法) 岸和田市南町一六七八
津田道之助(大一二專商) 神戸市須磨新田三十二番
藤田信雄(大一二專經) 兵庫縣川邊郡小田村潮江
西の五一番地

守屋伯市(明四一法) 大阪市北區曾根崎上二丁
目三十七番地

藤井彌一郎(大一二法) 大阪市東淀川區南濱町二
〇番地

濱田兼次郎(大一二專經) 歩兵第三十七聯隊第七中
隊二班

松本元次(大一二專商) 兵庫縣加西郡北條町主阪
二五九

橋本進(大一二專經) 佐賀市新馬場柳亭
神吉薰次(大一二專經) 神戸市菅原通二丁目九番
地

相場嘉榮(大一二專法) 長野縣北佐久郡大里村
横山浪五郎(大一二專經) 静岡縣磐田郡笠西村高尾
旭館内

本宮久吉(大一二法) 東京市京橋區三十間堀日
本スレート株式會社

野田健太郎(大一二法) 大阪市東成區北清水町一
〇二六

竹浦田原乃川水清根
大志 佐杉高佐生長二長山

小倉清助(明四四商) 京都府葛野郡梅津村大字
西梅津小字大繩場

森永清晃(大一二專經) 北區堂島濱通三丁目十八
番地

校友改姓名

大二三商 藤田信雄 小島信雄
大二三商 藤田信雄 小島信雄
大二三商 藤田信雄 小島信雄

本年度卒業新校友住所錄追加

專門部法律學科
家村彌一郎 豊能郡豊津村字榎阪二八七

石川政樹 北區葉村町二七字野方
原敬一 神戸市山本通一丁目五六ノ二

原關太郎 西區江戶堀北通一丁目上島益三
郎方

長谷川幸一 此花區大野町二丁目一五
播本喜雄 神戸市佐比江町一五一

原口孟 神戸市長田村釜ヶ谷七四四
本田喜代松 天王寺區六萬體町一三九六島方

大森延吉 北區大深町鐵道官舎二八ノ六
大森葆 此花區上福島北一丁目二三

波邊保一 神戸市七番町一八
茅田忠兄 明石市二番町中淺次郎方

河內透 和歌山歩兵第六十一聯隊第一大
隊第二中隊第四班

川端高一 神戸市平野山王町二丁目四後藤
定一方

竹内勳 武庫郡西灘村原田三三三
田邊秋雄 此花區上福島北一丁目五五

瀧本謙吉 東淀川區三國本町三〇
高林勝郎 北區東野田五丁目二〇三

辻本房次郎 住吉區天王寺町一〇九七ノ四内
田方

土平收平 西宮市石在町一〇二
中山喜八 此花區上福島中二丁目六八

内田正長 武庫郡御影町上中六七ノ一
白井隆介 東成區片江町

工藤祐博 武庫郡御影町石屋川旭詰一七一
ノ七

山川保二 神戸市須磨大平東ノ町一六藤原
方

山家誠 神戸市宮本通六丁目四五ノ四
松井慶次郎 明石市西新町四六〇

松田義男 神戸市東須磨大平中ノ所一九
藤田元義 東成區中本町一〇七二

江原勝三 北區若松町三八
赤木喜久三 西成區櫻通五丁目八六一

秋山謙吉 豊能郡豊中村二四七秋山卓爾方
貴島武彦 東成區生江町二四八ノ一

水馬千藏 北區京橋驛鐵道官舎

三原新三郎 浪速區新川二丁目六八八
三尾滿太郎 南區北桃谷町六〇

白井一夫 住吉區阿部野町四三五香川方
芝信夫 神戸市川西通五丁目二二三川間
兼吉方

東瀨俊次 此花區上福島北一丁目五九ノ二
後藤常次郎方

土方五之助 此花區島屋町五山下由松方
瀨其清馨 豊能郡石橋宣真高女前中原六郎
方

須川靖 東區備後町三丁目大日本紡績會
社内

醉谷長之助 東淀川區木庄町一〇二二南熊吉
方

南肇 西區幸町通四丁目一二中塚芳郎
方

鷺海哲勝 西區幸町通四丁目一二中塚芳郎
方

村上達 此花區上福島北四丁目六八窪田
方

岡本武 此花區上福島北四丁目六八窪田
方

磯浦良雄 此花區上福島北四丁目六八窪田
方

馬場正直 神戸市上澤通五ノ七四田中方
松濤敬之 港區九條中通三ノ五八二正行寺
方

遠藤正一郎 神戸市東須磨磨葉町三丁目五五
三好眞喜造 神戸市内浪松町二ノ五、三木周助
方

平田義辨 天王寺區谷町八丁目五増田方
鈴木三郎 西區江戶堀北通五丁目一〇九

專門部商業學科
石尾亮一 豊能郡庄内村字庄本七三
小原史郎 神戸市兵庫今出在家町三丁目三
九

河原政次 神戸市中山手通一丁目九七ノ一
〇

鎌田清 住吉區住吉公園第十九號
中村次郎 武庫郡住吉村驛前伊藤太一郎方

中井榮治 豊能郡櫻井谷村柴原二一八
黒田美男 港區市岡抱月町二丁目二五ノ一

前農夫 港區市岡吾妻町一丁目六四三藤
井卓之方

諸井幸村 神戸市外鹽屋四七九

千里山學報維持費受領報告

(到着順)

金參圓也 大一二專法 森脇秀正氏

金參圓也 明二九法 福富恭禮氏

金貳圓也 推 末松正行氏

金貳圓也 大一二專商 山下梅吉氏

金貳圓也 大一二專經 好田磯二氏

金貳圓也 大八法 淺井明氏

金貳圓也 明四〇法 高原順吉氏

金貳圓也 大一二專經 小林儀三郎氏

金貳圓也 大一二專經 濱名慶次郎氏

金貳圓也 大一二專經 井上孟氏

金貳圓也 大一二專法 山崎敬義氏

金壹圓也 大一二專法 平野七郎氏

金參圓也 明三三法 嵯峨根令氏

金貳圓也 大一二專法 岡野簾平氏

金貳圓也 大一二專法 廣瀨德藏氏

金貳圓也 大一二專法 田中小太郎氏

金貳圓也 大一二專法 志水政信氏

金貳圓也 大一二專法 高野時治氏

金貳圓也 大一二專法 安封宇吉氏

金貳圓也 大一二專法 新井正雄氏

金貳圓也 大一二專法 神宅賀壽惠氏

學生彙報

千里山學友會本 學年度委員任命

千里山學友會本學年度委員は過般左の如く決定され其任に就いてゐる。

- 司理部 宇都宮義雄(豫三)
- 野球部 鈴木貞之(法三) 上村靜馬(法三)
- 庭球部 名劍淺治(法二) 高阪市郎(豫三)
- 陸上競技部 平田茂(豫三) 木下尙武(豫三)
- ア式蹴球部 長岡盛人(法一) 村田定市(豫三)
- ラ式蹴球部 西原新太郎(商三)
- 武術部 高岡武夫(法一) 戸張昇(經三)
- 岡島文雄(經一)
- 水泳部 東清一(豫三) 沖中秀直(豫二)
- 西田檀治(豫二)
- 馬術部 酒井勝(豫二) 萩原一(豫二)

福島學友會新幹事

福島學友會では新學期開始と共に學友會幹事及同役員を改選した、次の通り當選それぞれ會長の認可を得て決定を見た。

- 幹事長 幹事 經三 瀬戸健助
- 文藝部長 同 經三 芦田文一
- 運動部長 同 商三 船曳俊雄
- 向上部長 同 經三 西野甚藏

- 總務部長 同 法三 眞鍋靜雄
- 辯論部長 同 法三 島田三郎
- 幹事 大島守吉(法三)、村上正躬(同)、森田正芳(商三)、村上博(同)、嵐勝茂(同)、星野武二(經三)、藤本幸一(文三)、大和孝男(同)、坂上龜太郎(同)、鹽屋甚助(法二)、上田貞之助(同)、正井善三(同)、高野和男(商二)、田中久雄(同)、山本誠一(同)、松井廣瀨(經二)、山室茂雄(同)、石原歳榮(同)、東三郎(文二)、白川友三郎(同)

千里山辯論部報

部員總會 新入部員歓迎の意味を兼ねて部員總會を去る四月二十八日午後一時から千里山學舎に於いて開催、新舊部員相會する者四十餘名、委員榎本信夫君の開會の辭に次いで部長佐々教授の挨拶があつた。終つて本年度事業に關する協議に移り新に役員として協議員を設くることを決議し、更に部員の自己紹介に興を湧かせ午後四時談笑裡に散會した。因に本年度協議員には左の諸君が選ばれた。

- 清水政秀(法二)、八澤俱好(法二)、木田末一(法一)、中石清一(豫三)、白川惠宣(豫二)
- 辯士派遣 其後千里山辯論部から他校へ派遣した辯士は左の通りである。
- 五月八日 東京萬朝社主催雄辯大會へ
- 法學部法律學科第二學年 清水政秀君
- 六月八日 京都龍谷大學主催雄辯大會へ
- 法文學部法律學科 榎本信夫君

豫科辯論部の大阪學生雄辯聯盟加入 兼ねてその議があつた豫科辯論部が獨立して大阪學生雄辯聯盟に加入する件は五月十二日大阪藥專に於ける聯盟委員會に於いて正式加入に決定した。

於ける聯盟委員會に於いて正式加入に決定した。五月十五日正午から千里山學舎第九教室に於いて學内雄辯大會が開催せられた。當日は恰も右雄辯大會終了後元大藏大臣井上準之助氏の講演があつたことにて聴衆堂に溢れ頗る盛會であつた。プログラムは次の通りである。

プログラム

- 一 開會の辭 (法二) 戴下益治君
- 一 觸らぬ神に祟りなし (豫二) 春原源太郎君
- 一 公娼は果して有害なりや (豫二) 福原菊次郎君
- 一 實生活より觀たる公娼存置論に就いて (豫二) 矢上徳君
- 一 禁酒反對論 (豫二) 榎本爲市君
- 一 學風發揚論 (豫二) 進正男君
- 一 禁酒果して可能なりや (豫三) 田中義雄君
- 一 政界腐敗問題 (豫二) 村田定市君
- 一 國民道德より見たる公娼制度 (豫三) 田中基次君
- 一 現代人は刺戟を追及す (經二) 増子一巳君
- 一 司會者挨拶 (法二) 榎本信夫君
- 一 學風建設のために (豫二) 白川惠宣君
- 一 英國の總罷業について(法二) 戴下益治君
- 一 現代青年果して意氣なきや (法二) 清水政秀君
- 一 所感 軍事教官 横巻大佐
- 一 閉會の辭 (法二) 榎本信夫君

野球部報

前號所報の關西野球聯盟戰の經過を左に概報し、併せて野球部の力戰の跡を偲ぶ。

九月五日——此の日午後三時より、京阪寢屋川に於いて、同志社大學對本學野球戰舉行、(球守隨壘稻原)同大先攻四回一點九回四點敵失で三點を、本學は一回一點二回三點、九回三安打一敵失で四點合計八點を得て、八對四

で、本學大勝した。メンバー左の通り。
竹木田原野川浦木根
佐八高佐生長杉植山
4 8 1 3 2 5 9 6 7
(P日栗柄、長谷川)

五月十二日——甲子園に於いて、午後三時より本學對關西學院戰舉行。(審判球原壘高田)本學先攻、第二回一アウト後能勢君の右翼安打松本君失にて三壘に進み、三木君の右翼直球安打に一點を得、關學は六回二アウト後走者二三壘により松本君左翼越三壘打を打つて二點を入れ、岡君四球スチール後松村君の右翼安打に二點を入れ、四對一で本學敗る。メンバー左の如し。

五月十七日——午後三時十五分、同志社對本學
關大) 川林森金能豊磯永三
2 5 1 8 9 4 7 3 6
打安三四盜失
數振球壘擊
三九八四二五

關學) 岡山三今山松岡松守
3 4 2 1 5 9 7 6 8
打安三四盜失
數振球壘擊
三〇七五三五一

關大) 川林森金能三豊永磯
2 5 1 8 9 6 4 3 7
打安三四盜失
數振球壘擊
二八三七二〇二

の第二回戦寢屋川にて開始。(審判、球岡島、壘山中)六A對二にて本學敗、戦況左の如し。

社	竹木田原左浦川清根
志	佐八高佐野杉長谷川
同	二中投遊生捕三右一
打	30 8 2 3 2 0 1 1
安	0 9 0 0 0 5 7 0
振	0 3 4 0 0 0 0 0
死	0 0 0 0 0 0 0 0
打	0 0 0 0 0 0 0 0
壘	0 0 0 0 0 0 0 0
盜	0 0 0 0 0 0 0 0
失	0 0 0 0 0 0 0 0
策	0 0 0 0 0 0 0 0
打	0 0 0 0 0 0 0 0
二	0 0 0 0 0 0 0 0

關大(先)	川林森金三能永磯豐小
捕	三投中遊右一左二PH
打	35 0 9 0 0 0 5 7 0
安	0 3 4 0 0 0 0 0
振	0 0 0 0 0 0 0 0
死	0 0 0 0 0 0 0 0
打	0 0 0 0 0 0 0 0
壘	0 0 0 0 0 0 0 0
盜	0 0 0 0 0 0 0 0
失	0 0 0 0 0 0 0 0
策	0 0 0 0 0 0 0 0
打	0 0 0 0 0 0 0 0
二	0 0 0 0 0 0 0 0

五月二十八日——午後三時五分より、同志社對本學の決勝戦を寢屋川球場にて開いた。此の一戦にて、私立三專門學校野球リーグ戦の覇權は確定するのであるから、兩軍とも極度に緊張した。(審判球三輪、壘景山)本學の先攻に火蓋を切る。一回に一點を入れ六回の裏に同大一點を得十四回戦まで進んだが兩軍共堅く守つて勝敗決せず遂にドングームミなつた。成績左の通りである。

關大(先)	川林森金三能永磯豐小
捕	三投中遊右一左二
打	46 5 7 3 2 0 2 1 1 0
安	5 7 3 2 0 2 1 1 0
振	11 1 3 3 2 1 1
死	1 1 3 3 2 1 1
打	0 0 0 0 0 0 0 0
壘	0 0 0 0 0 0 0 0
盜	0 0 0 0 0 0 0 0
失	0 0 0 0 0 0 0 0
策	0 0 0 0 0 0 0 0
打	0 0 0 0 0 0 0 0
二	0 0 0 0 0 0 0 0

得點 { 關大 10000000000000=1
同大 00000100000000=1

得點 { 關大 1000001000=2
同大 300001111A=6A

馬術部報

馬術部は、顧問横卷大佐、田中少佐、賀來講師、その他大阪愛馬會員諸氏の出席を仰いで過日、城東の一室に會して小宴を開き、新入部員歓迎及本年度の新陣容を整へた。役員左の通り。



千里山短艇部員

主將—札野 副主將—春天 マネージャー—織田 會計—岡島、淺本 出席係—樋口、大谷
新入部員 山本、楠井、佐野、西、祐成、岡本

五月十九日——部員一同は騎兵第四聯隊に於いて畏くも梨本宮殿下に拜謁、台覽馬術の光榮

に浴した。

五月二日——京都帝國大學學友會馬術部主催の馬術大會に於いて、本學を代表し、新進、淺木君、團體選手障礙物飛越競技に於いて一等賞を獲得した。

蹴球部報

去月三十日本學蹴球部は、關西遠征中の法政大學蹴球部を迎へて、午後五時より甲陽中學球場に於いて試合を行つた。右には本學蹴球部よく戦ひ、しばしば敵のゴールに迫つたけれども、利なく、遂に2對1にて勝を譲るの止むなきに至つた。成績左の如し。

關大	永田磨森藤田谷野形川結	13 8 4 1
井寺播吉近和三日	山北古	蹴蹴蹴點
FW	HB	GB
藤邊達田田谷中橋中藤塚	門隅自得	20 3 5 2
法政	齊渡足山吉濂小本田伊平	

端艇部報

端艇部の創設——水都三人も呼び吾も許す浪速に於ける私學の權威たる我が關西大學の運動部に未だ端艇部の設置されざるは、自他共に遺憾の感があつたが、去る一月二十日、本學當局の贊同を得て、端艇部の創設を見た。爾來、霜氣膚に迫る冬日の短きをかこち、臘月

夢さ霞む春宵徒らに暮れ易きを嘆じ、淀の廻江に、堂島川の競漕に、學びの暇を盗みては部員は鐵腕を練つた。螢光は一朝にして得られるものではない、クラッチの音にも忍べるもの、の淡き悲愁は漾ふ、三月二十日より四月十八日迄の休日を利用して只管腕を練り技を磨いた部員の獲物は、嘗に勝敗の跡のみでな

く、實に鐵膚の輝やきその儘に、強く堅く、氣高く、にぶく輝やくスポーツマンシップではあるまいか。

關西各大學高等專門學校端艇競争大會——去る五月九日の關西漕艇俱樂部主催、大阪毎日後援の同會には、豫て陰忍猛練習を重ねてきた端艇部の腕試しとして絶好の機會であるさ勇み立つて一チームを以て是に参加した。多年の試練を経たる大阪唯一の強敵たる大高が第一コース、九州の猛者明治專門が第二コース、次に本學豫科生チームは第三コースミなつた。スタートを切るや否や、我部は既に敵を牽制し終始力漕したけれども、最後に到つての頑張り利かず遺憾ながら僅か二尺の差を以て大高に勝を譲るの止なきに到つた。

然れ共部員は、益自重自研の上スポーツの精神を振作し、以て本學の名實を辱からしめざらんミ努力し、部名を四海に布かんことを誓つてゐる。

部員は、その後益増加して、新部員三十名の多きに上り、放課後、一艇を交代にて練習を續けてゐる。

左に端艇部の役員並に選手諸君を記せば、
部長——河村講師
顧問——水谷教授、賀來講師、横卷大佐、田中少佐、板津大尉、牧山儀平、中山寅造、八澤俱好、吉村竹一

部員——後藤延治(マネーヂャー)、末廣寅夫(舵手)、笠行等(整調)、米田英一(五番)、山縣不似磨(四番)、今井司(三番)、増成武雄(二番)、丹羽榮一(舳手)、永野辰夫(補缺)

端艇部奮戦して美事大捷す——去月二十三日我

が端艇部は神戸岩屋敏馬ヶ濱に於ける神戸高
商主催端艇競漕大會に参加し、本學豫科チー
ムは大阪高工チームのみにて決勝し、五月九
日の大會に於ける惜敗に鑑み、自重に自重を
重ねて奮戦し、遂に優勝の榮冠を獲得した。
ここに當時の戦況を述べ、その喜びを新にし
やう。

同日十一時三十分、當日の異彩である専門學
校レースの木學對大阪高工チームは、數千の
觀衆に擁せられ、拍手に送られて、決戦の機
に臨んだ。この日、雲低く、陽を遮り、暗
翳觀衆の面てにさざして、層一層戦況をして
緊張せしむるものがあつた。スタートは切ら
れた。始め我がチームは遅れて二艇身餘り
ドされてゐた。然しこれは我がクルーの胸に
ある所であつて、悠悠迫らず絶えず敵に接觸
しつつ漕いでゐるが、暫てコースの中央にか
かるや、全員一度に緊張し、總身の勇を奮つ
て漕ぎに漕いだ。見る見る中に半艇身、一艇
身、一艇身半を抜き、遂に決勝點にては二艇
身半の差を以て、正堂堂と美事に大捷した。
こは實に部員の實力と、不撓不屈の猛練習の
結果に外ならず、又學校當局並に役員
諸教授、まつた學生諸氏の熱心なる後援の賜
と部員は益自重してその發展を期してゐる。

第十一回工業見學

昨年度に行はれた工業見學は、成績が極めて
良好であつたので、本年も續ける事になつた。
五月八日放課後豫科二年生は多數の三年生並
に一年生を加へて、兵庫縣塚口にある森永製
菓株式會社第四工場を參觀した。この日、
横卷大佐、田中少佐、板津大尉諸教官の御出
席あり、工場員の懇切なる案内を受けて、各作

業を見學し、詳細なる説明を受けた。繊弱なる
少女の細指に依つて十箇入のキヤラメル箱
が日約千箇宛包まれるに聞いて愕ろいた。
茶菓の饗應あり、工場掛員の挨拶があつた。
同工場は製菓工場としては、實に完備せるも
のであつて、建築にまれ、設備にまれ、就業
状態にまれ、衛生施設にまれ、實に學ぶべき
事が多かつた。終りに同工場掛員諸氏に對し
て、その懇切丁寧なる案内と、饗應に對して、
紙上を借りて感謝の意を表する。

福島英語會

福島學舎に於ける英語會は、去月十日午後八
時より、第一教室に於いて、本年度入學生の
入會歡迎英語大會を催した。當日は一般の授
業終了後に開會したるに拘らず、聽衆會堂に
満ち、最後迄熱心に傾聽した學生諸氏が多か
つた。
左記プログラムの如く、會長櫻井教授を始め
諸教授の有益なる英語演説あり、極めて盛會
であつた。同會は此際多數入會者を歡迎して
ゐる。

PROGRAMME

- 1. Chairman..... Mr. Z. Takeyoshi, E.H.
- 2. Opening Address..... Prof. Sakurai, The Chairman.
- 3. Address..... Prof. Sakurai, The Chairman.
- 4. On the Wealth of Nations..... President of English Society, Mr. K. Nishimura, C.I.I.
- 5. On some remarks..... Prof. Sasa.
- 6. Social Reform..... Mr. K. Sato, F.I.I.I
- 7. History of our English Society..... Mr. Koshitaka.
- 8. A Glance at the recent labour Movement in Great Britain..... Mr. Hida.
- 9. Address..... Mr. Shimomura.
- 10. Closing Remarks..... Chairman.

語學大會豫報

來る十九日午後六時より、大阪毎日樓上
に於いて本學英語會主催、英文大阪毎日
後援の關西中等學校英語演説大會を開催
し、同會終了後引續き本學語學大會を催
す。當日は學生諸君は勿論、一般大方
の來聽を希望する。

皇陵崇敬會報

皇陵崇敬會にては去月一日第一回戰蹟研究會
を開いた。參會者三十有餘名、横卷大佐引卒
の下に、同日午後三時半大鐵阿部野橋出發、
長野觀心寺に向ひ、境内の後村上帝陵に詣で、
楠公遺跡をさむらひ、其處を辭し千早の宿所
に到る。時に七時。食後、横卷大佐の「金剛
山要塞最新式要塞」(別記參照)に就いて講
演あり、拾時消燈。

明くれば二日、午前六時半起床、直ちに會長
小泉教授の楠公史蹟研究談を聞き、愈臨地に
赴く。

千早城に於いて、横卷大佐の新舊築城法、戰
闘法對照の興味深き講話あり、楠公の智謀を
讚え、楠木神社に詣で、羊腸の坂路を突破し
て、途上楠木正儀卿の墳墓をさむらひ、金剛
山嶺に着く。葛木神社に詣で、眺望をほし
め、天下無双の要塞の眞價に就き會員
各自に於いて首肯する所あり、河村講師の
「理學上より見たる金剛山に就いて」の講演あ
り、間道を踏み分けて水分に下る。

其間左に桐山城即ち楠木本城、下赤坂城、右
に國見城等を見て水分神社に參拜し、楠公誕
生地を訪ねた。此處にて第一回戰蹟研究會の

行程を終え、記念撮影をなし、解散した。

同會では、同會の爲に大いに盡力せられた山
岡倭氏、木梨南狂氏に深く感謝の意を表して
ゐる。當日出席者は左の通りであつた。

- 横卷大佐、板津大尉、小泉教授、河村講師、山本
順應、淺見敏郎、入江堅壽、吉松須賀根、齋藤湊、
松本武、松竹武次郎、森井惣吉、淺見寛二、今井
憲夫、溝邊文和、奥川武郎、北村總三郎、吉本貞
義、廣田利一、矢野重雄、酒井幹郎、篠原敏夫、
門田文三、道端長作、浦路辰雄、日下吾一、湯川
政一、眞田章

東北 北海道郷友會

本學千里山學舎に學ぶ東北及北海道地方出身
者の間に過般題記の會が作られ去る五月二十
七日午後五時から市内心齋橋カッタ喫茶店に
於いて一夕の小會を催した。會するもの増子
一巳(經二)、加藤正秀(豫三)、阿部一雄(豫
三)、松本正夫(豫二)、佐藤進吾(豫二)、遠藤
政一(豫二)、澤目美喜夫(豫二)、中澤四郎(豫
三)の諸君に尙ほ同地方出身の本學教授武内
省三、同講師大立目重虎兩氏も出席し、久し振
りに故郷の風物なき語り合つて快い時を過ご
した。尙特筆すべきは同會では特に時間の勵
行に意を用ひ今後とも會合は凡て規定の時刻
に開會し出席者の數を論ぜぬ。

千里山短歌 編輯局選

△滿洲行 今山生
陸點の恐山に雲立つ日津輕の海を船出するかも
津輕の海かへり見すれば陸點の山ふもろに雲立
てる見ゆ
シベリヤは人目も草も枯れ果てて秋十月に吹雪す
るなり

五百重波高崎丸に寄せれば秋の七夜のゆめもきれきれ

△花 園 三浦歌介

花園の白壁の土はげおちて春陽は白く土に射し入る

黒土のもりより居る花園にわれなつかしく土の香を嗅げり

フリージヤの蕾愛でにし汝が手の指輪めがりて密峰飛びし

△若 人 珠川俊一

うたかたの消えては浮ぶ人の世になごさばかりを思ひなやめる

つれなしとあきらめそ彼の君も此の世に生くる人の子なれば

△初 夏 鈴木たけを

窓越しに降る五月雨を見てあれば人戀しくもなりけるかな

せみ鳴きて五月の風のねむさかな午後の木蔭に横たひあれば

この雨に摘む人なくて寂しくも細の毒ただにぬれ居り

初夏の山路登りてわが行けば肌え汗ばみ風は涼しくも

△歐洲往路 戸田省三

白壁の小さき街のたそがれて驢馬のいななきかな

しかりける(蘇州にて)

とつ園の植物園に見出でたる菊花にしはし足を止めにし(香港にて)

△若き悲み 藤村まさる

短かかる生命をながき名に代へむれがひ一つが人の甲斐かは

悟るこてその束の間を消えぬべきいのち暫しはあが胸に聞かれ

人形の君かや云ひて聞えればそのかなしみはひびり秘めにつ

△初夏所見 伊藤幸雄

茜さす入陽の空に初夏の六甲連山あはくも見ゆる

夏の夜の道頓堀の川の面に牡蠣船の灯の映れるを見る

いらか焼く煙上れる竈邊にさわらべ遊ぶ初夏の朝

来ぬ君を恨みわびつつあきらめて一人歸りぬ夜更げし町

△雑 詠 杜 良雄

ほのぼの雨後の空氣の乳色に光れる夜道音一人行く

△田園餘情 高原草路

小さな森のごとくに生ひ立ちて朝焼に光る花苗

移したり

この木蔭このかいれにれもごろに植えたり小さきコスモスの苗

早のびよ早花つけよコスモスの苗わが兒のごとくいつくしみせる

小さくて手にまびかれずアスターの苗弟より借るこのピンセット

朝焼けに白く光れりピンセット、アスターの苗をわがまびくなる

千里山俳壇 朝冷選

校友 土井春綾

里見ゆる高み歩きの朧かな

夕蟬家朧がかりに花白き

つつじ山川吹く風のまだ寒き

もちつつじの雨にぬれしを手折りけり

手を洗ふ濁り澄みゆく春の水

林枯三氏送別(二句)

月くらく寒き思ひに雁歸る

汐騒の海は朧に雁歸る

二三寸葱の青さに春の雨

山あひは日のなく花に霞引く

住む人の蠟燭燈し花の中

踏青やかけらひ遠き山の雪

日けむる丘の高みの柳哉

雪解山越せば里なる柳哉

木の下にすすぎしてゐる日永哉

つきつきに寄せて來る波暖き

春夕鉢木入るるに濡れてゐる

川そひは茶の木畑に春の月

春暮るる門田あかりの菖蒲草

植木苗家根に出しつ乙鳥

花脚む燕の飛びつ山在所

朝かすむ杉の木立の藤の花

山風が花散らしるる種井哉

酒飲まず誓ふ心に春惜む

餘花を前に小雨涼しき山家哉

雨はけし越來し山の餘花思ふ

あちこちに老鶯啼くや暮れやらす

路の奥の家の燈にある牡丹哉

豫三 鈴木たけを

湖に日のさし出づる若葉哉

畦道の長き眞晝の日傘哉

薬屋根に影のひろがる若葉哉

門を渡る鼠の明易き

蛋のあみ匂ふ相撲の裸哉

庭若葉囀つりそめて雨よろし

□常季雜詠募集

□送稿先 兵庫縣(芦屋局區内)深江 有田朝冷宛

學生諸君に告ぐ

千里山學報投稿に就て

▼學友會各部の記事、各種研究會、親睦會、縣人會その他學生諸會合の記事、論文、文藝作品等本誌に掲載希望の原稿は、總て千里山學舍圖書閱覽室内及び福島學舍學生入口左側に設置してある千里山學報投稿函に投入して下さい。但し寫眞その他投入不能の材料は事務所又は學報局へ直接提出して下さい。▼每號締切は前月二十五日限りとし、その以後の分は次號に廻します。

大正十五年六月 關西大學學報局

大正十五年六月十三日印刷
大正十五年六月十五日發行

不許複製

編輯兼發行人 辰巳經世

印刷者 飯田彌之助

印刷所 株式會社 三有社

發行所 關西大學學報局

大阪府此花區上福島

關西大學

大阪府外千里山

關西大學

電話吹田一三三

關西大學校友ソノ他關係者各位へ

●千里山學報維持費トシテ、校友ソノ他關係者各位カラ續續多額ノ御出捐ニ預リ有難ク幾重ニモ御禮申上ゲマス。

●何時モ申上ゲテキマス通り、出來ルナラハ每號無料デ御配付申上ゲルノガ本意デアリマスガ、今ノトコロドウシテモ各位ノ御援助ニ俟タナケレバ、到底發行ヲ續ケテ行クコトノ出來ズ状態ニアリマスノデ、遺憾ナガラ不遠慮ニト言フヨリモ寧ロ進ンデ御寄捐ヲ仰イデキル次第、何卒惡シカラズ御諒恕ヲ願ヒマス。

●金額ハ各位ノ御志ニ委セル外ゴザイマセンガ、大體年額貳圓位御寄捐願ヘマスレバ收支相償フ旨申添ヘテ置キマス。但シ集金郵便ニテ御拂込下サル方ハ勝手ナガラ一年半分若クハソレ以上トシテ金額參圓以上ヲ御申込ミ願ヒマス。

●從來御出捐願ヘナカツタ方ニ、コノ際何分ノ御援助ヲ御願ヒ申シ上ゲマス。ソシテ新タニ御出捐下サル方ハ、御手数數デスガ左ノ申込書ヲ御切り取り下サイマシテ、金額ナリ拂込方法ナリ適宜御書入ノ上御送付願上ヒマス。

●尚ホ、一年以上繼續御送申上ゲテ井ル方デ、今尚ホ御出捐ガナク、且ツ維持費ニ付テ何等ノ御通報ニモ接シナイ方ハ、或ハ送付先ニ現住サレナイノデハナイカト存ジマスカラ、今後發送ヲ見合セルコトニ致シマス。

大正十五年六月

關西大學學報局

千里山學報維持費拂込申込書

住所 年度 科 名 貴

金額

一金

拂込方法 振替貯金又ハ郵便爲替 集金 郵便

(何れか一方を抹消して下さい)

本學擴張基金寄附申込者芳名 (續)

Table with 2 columns of names and checkboxes. Includes names like 出口熊一氏, 橋本茂雄氏, 二谷宇市氏, etc.

校友・學生其他關係者各位

弊局發行左記繪葉書の殘部が尙ほ多少ございませうから御希望の御方は御申込下さい。

關西大學學報局

一、歐米經濟學者肖像繪葉書 (シリーズA)

アダム・スミス以下主として英國正統派經濟學者

六枚一組 定價 金貳拾五錢

一、同 (シリーズB)

佛・獨・奧・米等の代表的經濟學者

六枚一組 定價 金貳拾五錢

一、自然の秀麗 (シリーズC)

本學千里山學舎及びその附近の景を撮れるもの

八枚一組 定價 金貳拾錢

會計士志望者募集

日本會計士養成所々則

第一章 目的

第一條 本所ハ優秀ナル會計士ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二章 入所資格

- 第二條 本所カ入所ヲ許可スル者ハ身體健全ニシテ會計士タルニ適當ナル性格ヲ有シ且ツ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス
- 一、新舊大學令ニ依ル商學科又豫科ヲ有スル專門學校ノ商學科ヲ卒業シ且會計ノ實務ニ從事シタルコトアル者
 - 二、第一號ノ學歷ヲ有スル會計ノ實務ニ從事シタルコトナキ者
 - 三、新舊大學令ニ依ル經濟學科若クハ法律學科又ハ豫科ヲ有スル專門學校ノ經濟學科若クハ法律學科ヲ卒業シ且會計ノ實務ニ從事シタルコトアル者
 - 四、第三號ノ學歷ヲ有スル會計ノ實務ニ從事シタルコトナキ者
 - 五、豫科ヲ有セザル專門學校ノ商學科ヲ卒業シ會計ノ實務ニ從事シタルコトアル者
 - 六、第五號ノ學歷ヲ有スル會計ノ實務ニ從事シタルコトナキ者
 - 七、豫科ヲ有セサル專門學校ノ經濟學科又ハ法律學科ヲ卒業シ會計ノ實務ニ從事シタルコトアル者
 - 八、第七號ノ學歷ヲ有スル會計ノ實務ニ從事シタルコトナキ者
- 第三條 志願者ハ左記ノ試驗ヲ行フ
- 前條第一號又ハ第五號ニ該當スル者、會計學、簿記、外國語、商業數學
 - 前條第二號又ハ第六號ニ該當スル者、會計學、簿記、外國語、商業數學
 - 前條第三號又ハ第七號ニ該當スル者、民法、商法、經濟原論、外國語
 - 前條第四號又ハ第八號ニ該當スル者、民法、商法、經濟原論、外國語
- 第三章 修業年限

第四條 修業年限ヲ前期及ヒ後期ニ分ツ前期トハ會計士ノ免許ヲ受クル迄ノ期間ヲ謂フ後期トハ其後ノ參ケ年間ヲ謂フ

第四章 學業及實習

第五條 所員ハ所長及ヒ其指定スル者ノ指導ヲ受ケ前期ニ於テハ會計士試驗ヲ受クルニ必要ナル學科ヲ研究シ及ヒ會計事務并ニ會計實務ヲ實習シ後期ニ於テハ特ニ選擇シタル一種又ハ數種ノ企業ニ關スル學科ヲ研究シ及ヒ之ニ關スル會計士實務ヲ實習スルモノトス

第六條 所員ハ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ得タルトキハ教師タルコトヲ得

第五章 入所

第七條 本所ニ入所セントスル者ハ履歷書ヲ持參シテ所長ニ面談シ試驗合格後卒業證書、在職證明書、戶籍謄本、健康診斷書、及保證人候補者氏名ヲ提出シ許可ノ決定ヲ受クヘシ

第八條 所員ハ毎月其扶養スヘキ人數其他ノ事情ニ應シ一定ノ金額ノ支給ヲ受クルモノトス

第六章 給與

第八條 所員ハ毎月其扶養スヘキ人數其他ノ事情ニ應シ一定ノ金額ノ支給ヲ受クルモノトス

所長會計士 竹内恒吉

大阪 東區南久太郎町二丁目一番地南久太郎町堺筋東入南側
電話園船場三三四〇番
東京 麴町區永樂町一丁目一番地丸の内ビルディング三五二區
電話園牛込五六二〇番

會計士

竹内恒吉事務所

關西大學 元講師 竹内恒吉
同 校 友 尾川隆二

關西大學教授 宮島綱男先生著

經濟學原理

(卷上)

菊版總クロース製
紙數約三百七十頁
コロタイプ刷肖像數葉
定價金參圓五拾錢
送料金拾八錢

著者が其透徹せる推理力と豊富なる語學力とを以て研鑽潜思幾年の後遂に成つたもの即ち本書である。堂堂一般經濟の原理を論じて照合するところ古今東西の史實、學說に亘り而かも之が嚴精なる批判檢討を通して導き出だせる結論を更に一步現代の經濟事實に近附けたる點に於いて

學界稀に見るの好著である。行文平明にして正確、敘述亦繁簡其宜しきを得て經濟學を正しく理解し現時行はるる諸種の學說に對して相當の批判力を得る爲めには先づ第一に讀まるべき書物である。加ふるに各節末には詳細なる參考書目を掲げて讀者將來の研究に便し書中引用するところの學說に關係深き學者の肖像を十數葉の鮮麗なコロタイプ版として挿み裏面に其傳記を附して、學說と時代の交渉並びに學說夫れ自身の印象を一層深からしめんと努めてゐる蓋し經濟學史としても一の纏つた好參考書である。尙ほ本版には書中引用せる學者のインデックスを付し且つ第一、第二に洩れたる又は其後公刊せられたる參考書の目録を増補した。敢へて大方に獎む。

增訂第三版

東京市神田區錦町一丁目二番地
發行所 文堂
電話五五〇一
大阪西區阿波堀通四丁目
大發行所 大阪株式會社
電話三三〇三

新刊

田川七郎先生著

珠算要義

菊版總クロース製
紙數約二百七十頁
定價金壹圓參拾錢

著者は曾つて實際に算盤をとつて實業界に活動し、或ひは陸軍將校實業講習會に於いて珠算を講じたることありしのみならず現に關西甲種商業學校、關西大學第二商業學校及び北陽商業學校に於いて珠算科を受持ち令名ある人、多年に亙る經驗と研鑽の結果を傾けてここに本書をなす。編を分つこと七、苟くも珠算に關することにして細大説いて盡さざるなく、加之、附録として多數の練習問題を掲げ以つて教授並びに獨習の便に供す。蓋し教科書として將又一般參考書として良著の最たるを失はず、敢へて江湖に薦む。

發行所 東京市神田區錦町一丁目二番地
文堂

電話五五〇一・電話三三〇三

高等及中學校教科書販賣
配本供給
内外圖書雜誌販賣
確實迅速
法律、經濟、學生參考書各種
責任確保
エスペラント書各種

日本エスペラント協會大賣捌所

大阪市西區京町堀通二丁目

寶盛堂書店

電 土 五 二 二 二 番

机上的友

新刊月報無代進呈
東京各出版所目錄進呈

御注文は電話を御利用。

特別御相談は御一報次第參上。

使へば使ふ程

書きよくなる

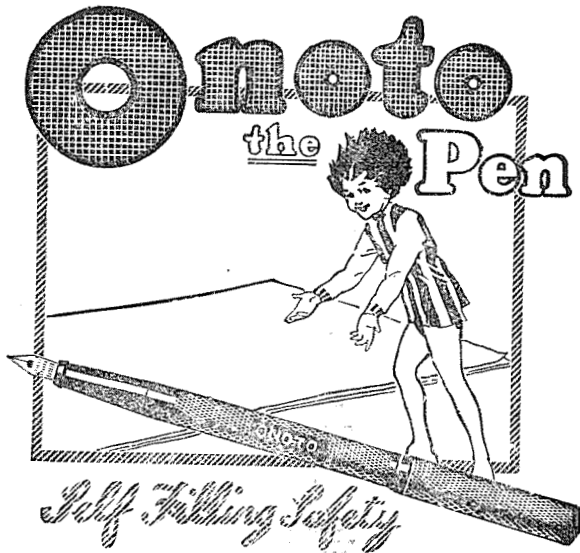
オノト万年筆

オノト万年筆 ¥8.00 以上

アテナ万年筆 ¥3.50

万年筆用アテナインキ ¥.35

(目録進呈)



丸善株式會社大阪支店

大阪市東區博勞町四丁目(心齋橋北)